

2020

活動報告書

第15号



関西大学ボランティアセンター

「2020年度 活動報告書」の刊行に寄せて

ボランティアセンター長 松村 吉信

関西大学は、2005年4月に大阪府内で初めてボランティアセンターを設立し、2020年に15年目を迎えることができ、本学ボランティアセンターへの登録学生数も累計で約5,300名に達しています。多くの学生がボランティア活動に参加されているのは、この活動が座学では得られない心の成長を促す活動であると理解されている点や関係者各位の多大なるご支援やご協力の賜物と感謝申し上げます。

ボランティア活動に参加する学生の動機は、①ボランティア活動を通じて社会に貢献したい、②ボランティア活動を通じて多様な人々とのつながりを得たい、③ボランティア活動を通じて知見を広めたい、など様々で、これまで、当センターでは1人でも多くの関大生がボランティア活動に魅力を感じ、最初の一步を踏み出せるように、各種取り組みを行ってきました。その結果、ボランティア活動参加者は、コロナ禍の影響を受けた2020年度を除いて、毎年約2,000名に上っています。このことは、学生によるさらなる自主的なボランティア活動へと発展する呼び水にもなっていることでしょう。

本学の長期ビジョン「Kandai Vision 150」において、当センターは、『関西大学＝（イコール）ボランティア』を新たなブランドイメージに」を掲げ、すべての関大生が豊かな人間性を持ち、各々がそれぞれの形のリーダーシップを発揮して社会に貢献できるように当センターが支援活動を広げて、この面で大学を担う重要な柱になっていきたいと考えております。多様化する社会、AIを含めたICTが進化する社会において、ボランティア活動を通じた多様な人々との交流が、多くの価値観に触れ、仲間と協力し、何かを成し遂げ、“新しい”を創造する機会が、学生にとって貴重な気づきと成長に繋がるものと信じています。

当センターの活動の一例として、学生スタッフが企画・運営したボランティア体験ツアーがあります。テーマは、環境保全に関するもの、地域貢献に関するもの、子どもに関するもの、清掃活動に関するもの、防災に関するものなど、多彩な企画を用意しております。これら学生自らの目線に基づいた社会や学生の関心を理解した上での企画は、ボランティア活動に対する先入観をよい意味で変化させ、「自分ももっと活動に参加したい、ボランティアの精神を大学内にもっと普及させたい。」と感じさせる内容となっていることでしょう。

2020年度は、2019年度後半から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、課外活動の制限・自粛を余儀なくされました。活動参加のきっかけ作りとなる「淀川清掃」や「大和川大掃除」などの体験ツアーも、残念ながら実施を見送ることとなりました。一方、当センターが主催する各種ボランティア講座は、来場型からオンライン型へ切り替え、ボランティアに関心のある学生に対して契機となる、あるいは実践に役立つ情報等の発信を継続してまいりました。

2020年度に公益財団法人電通育英会の助成を受けた「琵琶湖ツーリズム！大学生が考える環境ボランティアの未来」を、法政大学、明治大学との連携協力協定に基づく連携事業と位置づけ、琵琶湖の生態系を守るために特定外来植物駆除及び清掃活動を実施する予定でしたが、実践は2021年度に繰り延べることとし、オンラインを活用した3大学の研修会、交流会及び合同活動報告会を行うなど、コロナ禍に対応した学生ボランティアリーダーの育成を図ることができました。

また、当センターは、これまで各キャンパスが立地する吹田市・高槻市・堺市の行政や市民団体とも連携し、様々なボランティア活動にも積極的に取り組んでまいりました。詳細については、本報告書をご覧ください。

今後のボランティアセンターの多彩な活動と新たなチャレンジに対し、益々のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

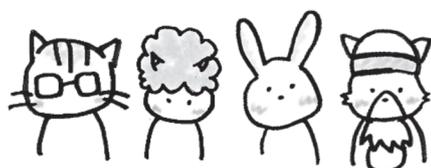
目次

2020年度のボランティアセンター活動報告書刊行に寄せて ボランティアセンター長 松村 吉信

1 ボランティアセンターの事業について	
・関西大学ボランティアセンターの歩み	1
・2020年度ボランティアセンター事業報告	3
・各種講座	11
2 ボランティアセンター学生スタッフについて	
・ボランティアセンター学生スタッフとは	15
・ボランティアセンター学生スタッフ活動記録	19
・学生スタッフ代表からの一言	30
3 学内ボランティア団体への支援について	
・学内ボランティア団体への支援・及び紹介	33
4 広報活動	42
5 資料	44
・ボランティアセンター紹介記事	50

1. ボランティアセンターの事業について

関西大学ボランティアセンターの歩み
2020年度ボランティアセンター事業報告
各種講座



2020年度ボランティアセンターの事業について

ボランティアセンターの歩み

関西大学

ボランティアセンターの歴史

- 05年 4月関西大学ボランティアセンター設立
◆大阪府の大学初
- 06年 学生スタッフによるボランティアコーディネーター開始
◆当時はボランティア活動相談コーナーという名称
- 10年 ボランティアセンター登録者数累計1,000名を突破
- 11年 「第1回 淀川大掃除」みんなの力で輝く淀川」開催
◆初の試みとして総勢約500名で清掃活動を実施
- 13年 学生スタッフの活動拠点として「ボランティア・エリア」誕生
- 15年 ボランティアセンター設立10周年企画事業を展開
◆大阪ボランティア協会常務理事 早瀬昇氏による講演会
- 16年 関西大学創立130周年記念事業を展開
◆元阪神タイガース赤星憲広氏と山縣文治教授による対談
- 17年 「第1回 大和川大掃除
」力を合わせて大和川に輝きと感動を」開催
◆総勢約300名で清掃活動を実施
- 19年 ボランティアセンター登録者数累計5,000名を突破

2005（平成17年）4月1日、本学に大阪府内初の大学ボランティアセンターとして、ボランティアセンター事務室が開設されることとなり、学生生活課奨学金担当者が兼務で、ボランティアセンター事務室開設業務を担当した。当時、「ボランティアセンター」という組織は他大学にもほとんど設置されておらず、大学業務としては全く未知の分野であった。設立当初は約20名の有志の学生スタッフとともに、手探りながらボランティアセンターの礎を築いた。

2007年から実施をスタートしたボランティア体験ツアー「淀川掃除」は、2011年2月に参加学生が、累計1,000名に達した。同年1月には、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長より「淀川サポーター」として認定され、関大生にとって手軽にできるボランティアであり、親しみのある活動として定着した。

「淀川掃除」10周年を迎えた2017年からは、淀川の水系である琵琶湖にて、外来生物駆除および清掃活動を実施する「琵琶湖ツーリズム！関大生で考える環境ボランティアの未来」を企画し、歴代の学生スタッフの想いを伝承している。

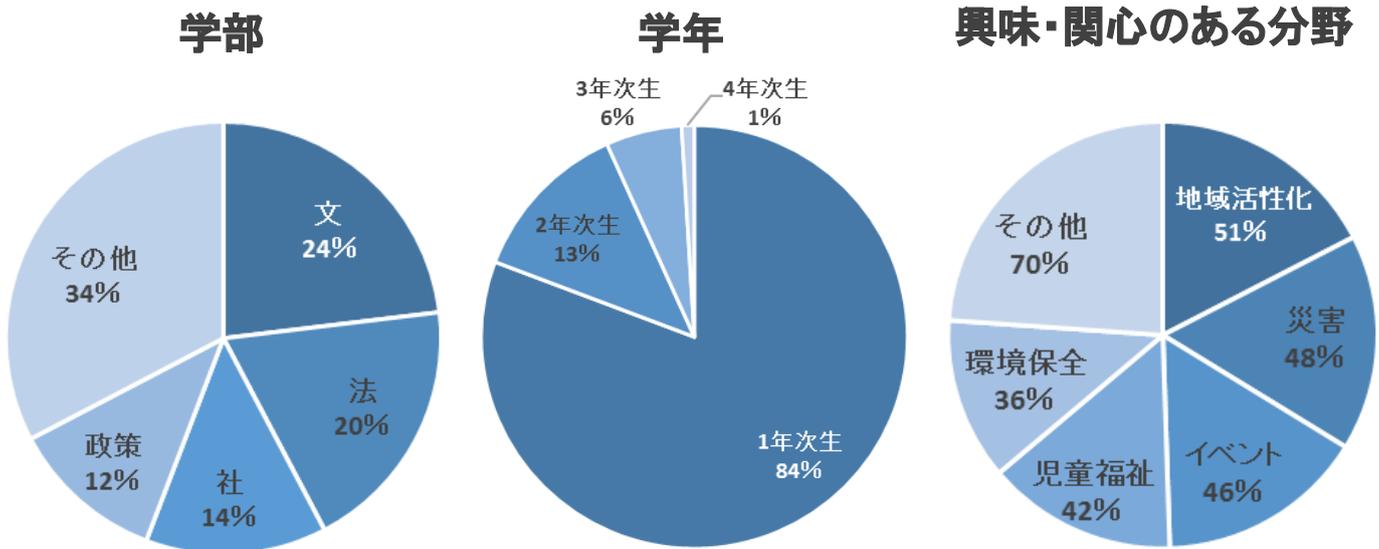
2016年に関西大学は創立130周年を迎えた。20年後の150周年を見据え、長期ビジョン「Kandai Vision 150」が策定され、ボランティアセンターは、新たな目標に「関西大学＝ボランティア」を掲げた。情報機器の普及などにより人と直接的に関わる機会が少なくなりつつある現代において、ボランティア活動を通じてさまざまな人と交流し、多くの価値観に触れ、仲間と協力し何かを成し遂げることは、学生にとって貴重な気づきと成長の機会となる。また、全ての関大生が豊かな人間性を持ち、リーダーシップを発揮して社会に貢献できる学生となるよう、ボランティアセンターは支援活動を広げ、大学の重要な柱となるように上記の目標を掲げた。

大学ボランティアセンターは、社会福祉協議会のように「明確にボランティアをしたいという意思を持った」人が集う場所ではない。ボランティアに関心のない学生がボランティアをはじめのきっかけを創る場所としても学生スタッフとともに歩み続ける。

ボランティアセンター登録者数

ボランティアセンターでは、ボランティアセンターおよびボランティアステーションに、初めて来室した学生に「ボランティアセンター登録用紙」の記入をお願いしている。その際に、メールマガジン登録やLINE等SNSの案内も行っている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2020年度の登録者数は例年より減少したものの、登録者は累計5,270名を突破した。

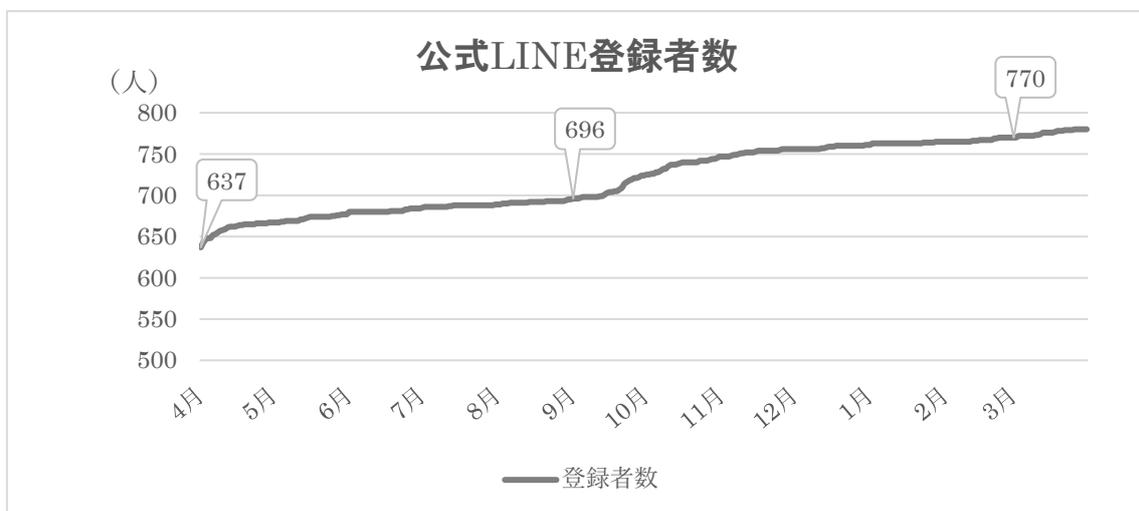
2020年度ボランティアセンター登録者数 104名



公式LINEへの登録者数

2019年4月より「ボランティアを広める」ための新しい広報手段として、公式LINEの運用、Googleフォームでのオンライン受付を取り入れ、公式LINEからボランティアセンター主催事業の参加申込フォームへのアクセスを可能とした。2019年6月からは公式Instagramの運用もはじめた。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年度は前年に比べて公式LINEの登録者数は少なかったものの、累計780名（2021年3月31日現在）となった。



1. 淀川掃除

2007年5月11日に、市民団体である「淀川掃除に学ぶ会」の会長から、同会が毎月第1日曜日に実施している淀川掃除のボランティア募集の協力依頼があった。かねてから、ボランティア体験ツアーについて検討していた学生スタッフが、2007年8月4日にボランティアセンター職員と共に活動に参加して以降、関大生に対して行う「ボランティア体験ツアー」と位置づけ、以後継続して実施している。

2011年1月21日には、本センター学生スタッフが、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所より「淀川サポーター」として認定された。淀川サポーターとは、淀川サポート制度の下、淀川河川事務所が管理する一定区間で活動していること、かつ定期的に環境保全整備活動を行っている団体に対して認定される制度である。また、この認定を受けたことや、本事業が2011年度で5年目を迎えた記念として、2011年度から2016年度まで本学と連携協定を締結しているミズノ株式会社及び体育会本部等の協力を得て、「淀川大掃除～みんなの力で輝く淀川～」を6回に渡り開催した。

参加者数は、2019年10月に、累計で約7,000名となった。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施を見合わせていたが、関大生にとって、「気軽にできるボランティア」であり親しみのある活動として定着している。

2. 大和川大掃除

2007年度から行ってきた淀川掃除と、2011年度から開催している年1回の淀川大掃除は、継続的に活動を続けてきたことが実を結び、清掃エリアのゴミが大人数で掃除する必要がないほどにまで減少した。これにより、2017年度から、ミズノ株式会社及び体育会本部等の協力を得て、大掃除の場所を淀川河川敷から大和川河川敷へと移し、「大和川大掃除」を開催している。しかしながら、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見合わせた。

3. 認定 NPO 法人びわこ豊穰の郷との連携事業

▶琵琶湖ツーリズム！関大生で考える環境ボランティアの未来

2017年度から「認定NPO法人びわこ豊穰の郷」が取り組んでいる特定外来生物「オオバナミズキンバイ」の駆除活動に参加している。「オオバナミズキンバイ」は、生息域を急速に拡大し、放っておけば淀川水系全域に広がってしまう恐れがある水陸両生の水草である。この水草は、茎や葉の断片からも再生するため、機械ではなく手作業で根や茎をできるだけ残さないような駆除作業をする必要があることから、より多くのボランティアの力が求められている。南湖では、継続的に取り組んでいる地域のボランティアの力により、オオバナミズキンバイが減少傾向にある。

ボランティアセンター開設時より清掃ボランティアに取り組み、多くの関大生が環境について考える場となった「淀川」の源流が琵琶湖である。また他にも、芥川（高槻市）での掃除やアユの

産卵場整備、特定外来生物ミズヒマワリ駆除活動など、当センターでは琵琶湖を源流とする淀川水系で多様なボランティア活動を展開していることから、関わりが深い琵琶湖での清掃活動を通して、身近な環境問題を学ぶ場として連携事業を開催した。

2020年度は電通育英会「2020年度 学生を対象とする次世代リーダーの育成活動に対する助成事業」の採択を受け、例年よりも規模を拡大して開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

4.奈良県明日香村との地域連携事業

明日香村は、数々の日本の歴史的遺産を保有する地域である。1972年の高松塚古墳の発掘調査は本学の故 網干名誉教授（明日香村名誉村民）の指揮のもと行われ、石室、壁画の発見をはじめとして、本学が明日香村と長きにわたり親密な関係を築く土台となった。2006年に、あらためて締結した「明日香村と関西大学との地域連携に関する協定」に基づき、継続的な事業として連携を深めている。

▶飛鳥光の回廊

明日香村が毎年開催している「飛鳥光の回廊」には、2011年度から連携事業の一環として参加しており、本学地域連携センターを通じて、当センターへ学生ボランティアの協力依頼がある。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

▶飛鳥川の一斉清掃

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

5.市民団体「新川姫蛸と花を守る会」との連携事業

2011年1月に、学生スタッフが国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所主催の「淀川サポート制度意見交換会」に出席し、その際に高槻市市民団体「新川姫蛸と花を守る会」の代表より声をかけていただいたことをきっかけに、連携が始まった。

▶ヒメボタル観賞会

当該団体は、高槻市の新川に生息する姫蛸の保護活動を中心に活動している。姫蛸は大阪府で絶滅危惧種に指定されていることから、毎年「蛸の観賞会」を開催し、観賞者に対して啓発チラシを配布し、環境問題について考えてもらう機会としている。例年、当センターも本事業に参加しているが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

6.NPO 法人 花と緑のまちづくり 高槻景観園芸クラブとの連携事業

▶高槻花植えボランティア

当該団体は、JR 高槻駅～市役所周辺、阪急高槻駅～城跡公園へ至る街路、城跡公園内の花壇の植栽を行っており、高槻市内の緑化重点地区を中心に花と緑で街を彩り、景観の向上活動をしている。

高槻市からの依頼を受け、2017 年度より当センターも本事業に参加しているが、2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

7.吹田市との連携事業

▶吹田くわいボランティア

2018 年度より吹田市から依頼を受け、西農園のご協力のもと、吹田市の特産物である「吹田くわい」の植え付け、除草、収穫のお手伝いを行っている。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

8.エコキャップ運動

身近なことからできる環境保護・国際協力活動として、2008 年 7 月からエコキャップ運動を開始した。エコキャップ運動は、エコキャップ運動協賛企業がペットボトルキャップを回収し、リサイクルすることによって得た利益を、認定 NPO 法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付するというものである。

認定 NPO 法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」への寄付金は、unicef ((公財) 日本ユニセフ協会) との連携により、支援先の子どもたちにワクチンが送られる。2020 年度 (2021 年 3 月 31 日現在) に回収を依頼したキャップの累計総数は 2020 年度末に 286,600 個となった。

9.大阪家庭裁判所との連携事業

大阪家庭裁判所において行われている「試験観察中の非行少年への学習指導」ボランティアプログラムである。当活動は開始から 13 年目を迎え、継続学生も含めると、登録した学生ボランティアの数は、総勢 232 名にのぼる。

学生にとっても貴重な社会勉強の機会として、学生たちが活動しやすいように、家庭裁判所調査官と大阪家庭少年友の会の両者によってさまざまな工夫を検討していただいている。

2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学生の募集を行わなかった。

10.公益財団法人 電通育英会

2020年度 学生を対象とする次世代リーダーの育成活動に対する助成事業

▶琵琶湖ツーリズム！大学生が考える環境ボランティアの未来

きっと答えは1つじゃない～滋賀県琵琶湖岸での外来植物駆除活動及び清掃活動～

2017年度から琵琶湖で外来生物「オオバナミズキンバイ」の駆除活動に参加していることから、3大学連携事業として、『琵琶湖の生態系を守るために、「オオバナミズキンバイ」の駆除活動及び清掃活動を行い、関西大学、法政大学、明治大学の学生が共同し、理論と実践から環境保全活動の未来を考える。』をテーマとした活動を計画したところ、2020年度に公益財団法人電通育英会の助成事業に採択された。



しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた現地での、駆除活動及び清掃活動から大幅に変更し、研修会、交流会を中心とした、3大学の学生が環境保全問題の理論的理解を深める以下の事業をオンラインにて実施した。

▶法政・明治・関西3大学オンライン交流会

大学生が考える環境ボランティアの未来～きっと答えは1つじゃない～

事業名	【第1回】環境問題から考える大学生ができること～ボランティアの道をリーダーが切り開く～
日時	8月26日(水) 13時00分～15時00分
場所	オンライン (Zoom)
講師	特定非営利活動法人ユースビジョン代表 赤澤 清孝 氏
参加者数	学生25名、教職員11名
内容	<p>第1回は、「環境問題から考える大学生ができること～ボランティアの道をリーダーが切り開く～」をテーマに、三大学オンライン交流会を開催した。</p> <p>NPO 法人ユースビジョン代表の赤澤 清孝氏を講師に迎え、「環境問題に取り組む学生リーダーのためのグループ運営術」について講演いただいた。主な環境問題と、ご自身の経験も踏まえた活動事例紹介をお話いただき、それを受けて3大学の学生が3～4名ずつの小グループに分かれ、グループディスカッションを行った。その後、ボランティアにおけるリーダーシップについて、組織運営などの話も交じえた講義があった。</p> <p>多くのボランティア経験を持ち、リーダーとして活動されている赤澤氏の講義は、ボランティアの活動をしている学生にとって、大学生が取り組む環境問題にとどまらず、各自が所属する組織について考える機会とした。</p>

事業名	【第2回】日本一の山“富士山”と日本最大の湖“琵琶湖”の環境問題
日時	9月2日(水) 13時00分～14時40分
場所	オンライン (Zoom)
参加者数	学生23名、教職員11名
内容	第2回は、「日本一の山“富士山”と日本最大の湖“琵琶湖”の環境問題」をテーマに、学生2名から「富士山に関連したボランティア」活動について発表があり、そして本学学生の大西 賢汰さんと鏡堂 隼平さん(2年次生)から、「琵琶湖ツーリズム」ボランティアの活動について発表があった。その後、各大学からの事例発表に基づき、グループディスカッションを行った後、各グループ内で話し合った内容を発表した。他大学の環境ボランティアの活動を知ることで、各地域での環境問題を知り、環境問題の原因を議論することにより、自分たちの活動に活かせる視点を獲得する機会とした。

事業名	【第3回】大学生が考える環境ボランティアの未来～きっと答えは1つじゃない～
日時	9月9日(水) 13時00分～14時40分
場所	オンライン (Zoom)
参加者数	学生18名、教職員13名
内容	第3回は、「大学生が考える環境ボランティアの未来～きっと答えは1つじゃない～」をテーマに、はじめに各大学事務職員から自大学のエコへの取り組みについて発表を行った。その後、学生、教職員が各テーマごとにグループに分かれて、グループディスカッションを行い、その内容を発表した。 外来種、3R (Reduce、Reuse、Recycle)、森林伐採、海水汚染、プラスチックごみなど、興味のある環境問題について、原因、解決方法、解決後の未来を議論することで、改めて問題意識を持ち、自分たちの活動に活かせる視点を獲得する機会とした。

▶琵琶湖ボランティア活動場所選定に関する下見

日 時	11月8日(日) 14時30分～16時00分
参加者数	学生スタッフ8名
下見場所	①滋賀県守山市 赤野井湾付近 ②滋賀県大津市 和邇浜付近 ③滋賀県野洲市 佐波江浜
内 容	琵琶湖全体の外来植物やゴミの散在状況を確認するために、南湖1か所、北湖2か所を現地調査した。また、湖岸の足場がそれぞれ異なることから、活動しやすい場所はどのような場所かを確認するために、3か所に分かれて下見を実施した。

▶法政・明治・関西3大学オンライン活動報告会

—コロナ禍で駆け抜けた2020—

日 時	3月3日(水) 13時00分～15時30分
参加者数	学生23名、教職員13名
内 容	第1部では、3大学から計5団体が2020年度の活動報告を行い、その内容について、グループごとに分かれて感想や質問を共有した。 第2部では、参加者全員での交流会と位置づけ、「2021年度に向けて」という大きなテーマについて意見交換を行った。 所属している団体の活動だけではなく、他の団体が2020年度コロナ禍でどのように活動していたかを聞くことで、2021年度に向けての活動に活かせる視点を獲得の機会とした。

11.堺市との地域連携事業におけるボランティア活動（事務局：堺キャンパス事務局）

堺キャンパスのある堺市と関西大学は、2008年に基本協定を締結しており、大学の教育研究活動と地域資源を融合した連携事業を実施している。その中で人間健康学部の学生は、堺市の小中学校に出向き、児童生徒の運動促進を図る取り組みへの協力や、地域の子どもたちを対象としたスポーツ企画の運営など、ボランティア活動を通して講義だけでは学べない経験を積み、社会人基礎力を養っている。また、関西大学が取り組む教育研究活動の成果を社会に還元し、地域が抱える諸課題の解決に寄与している。



新しい遊びの場

2020年度は、ボランティアとして以下の事業に参加した。

事業名	開催日	時間	内容	講師	ボランティア学生数 (行事参加者数)	会場
堺市立小学校連合運動会 ボランティア活動	10月	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	堺市立小学校連合運動会での企画・運営	-	-	-
かんだい子ども食堂	7/23(木・祝)	10:00～12:00	かんだい子ども食堂 おすそわけ食マーケット	-	19名(28名)	関西大学堺キャンパス 食堂前広場
	8/22(土)				19名(34名)	
	9/12(土)				19名(36名)	
	12/18(金)	15名(21名)				
	10/16(金)	16:00～19:00	かんだい子ども食堂		15名(24名)	関西大学堺キャンパス 食堂前広場、食堂・ Cafeteria Port、 体育館アリーナ
	11/20(金)	16:00～18:00	かんだい子ども食堂		26名(49名)	関西大学堺キャンパス 食堂前広場
	10/31(土)	15:00～16:00	かんだい子ども食堂 浅香山ハロウィンフェスタ2020		46名(350名)	浅香山地域 (香ヶ丘1～4丁目) 堺キャンパス 食堂前広場、 エバーグリーン等
	12/16(水) ～12/18(金)	12:00～13:00	学生向けおすそわけ食マーケット		21名(150名)	関西大学堺キャンパス 食堂前広場
1/23(土)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	YWCA講演会	-	-		
堺市民対象 ソフトボールスクール	1/24(日)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	支援学級中学生 ソフトボール交流教室	関西大学 人間健康学部教授 河端 隆志 関西大学 体育会 ソフトボール部監督 吉末 和也	-	-
			女子中学生対象 ソフトボール教室			
香ヶ丘商店街を中心とした 浅香山地区のまちづくり	8/23(日)	10:00～12:00	スポーツ教室 小学生のための 新しいあそびの場	関西大学 人間健康学部教授 村川 治彦	6名(12名)	関西大学堺キャンパス 体育館アリーナ
	9/27(日)				9名(16名)	
	10/11(日)				9名(12名)	
	3/7(日)				4名(17名)	
	-	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	学習支援 浅香山学童ルーム 浅香山地区防災活動		-	-

事業名	開催日	時間	内容	講師	ボランティア学生数 (行事参加者数)	会場
社会的養護の普及・啓発 および社会的養護下にある 子どもの自立支援事業	4月 ～3月	新型コロナウイルス 感染拡大防 止のため中止	・学生が施設を訪問して 学習指導、スポーツ指導 ・スポーツ教室 ・スポーツ交流事業	-	-	-
住吉祭神輿渡御ボランティア 2020	8/1(土)	新型コロナウイルス 感染拡大防 止のため中止	住吉祭神輿渡御ボランティア	-	-	-
人間健康学部 学生ボランティアネットワーク	実施なし					
「新しい生活様式」と食、農、 自然を軸にした地域づくり	8/26(水) ～8/30(日)	4泊5日	農業研修	関西大学 人間健康学部教授 村川 治彦	6名	熊野出会の里
	9/19(土) ～9/20(日)	1泊2日			8名	
令和2(2020)年度 体力向上推進事業	4月 ～3月	-	体力向上スクールサポーター (体育学習や部活動におけるサポート、 休み時間や放課後等の時間における 児童生徒の運動促進を図る取組みをサ ポート)	-	2名	堺市立上神谷小学校
					0名	堺市立東陶器小学校
					2名	堺市立神石小学校
					2名	堺市立津久野小学校
					1名	堺市立津久野中学校
日中姉妹都市交流による 大学生グローバル・リーダーの 育成	3/6(土)	17:00～18:30	日中交流	-	34名	オンライン開催
	3/19(金)	18:00～19:30			28名	
	3/26(金)				31名	
	3/27(土)～	-	「中国の民衆生活にみられる 神と鬼」講演会	-	-	

2010年度から開始した関西大学と堺市との地域連携は、本学の地域貢献協力資金により運営しており、2020年度で11年目を迎えた。

各種講座

1. ボランティアセミナー

ボランティアに関心のある学生やボランティアに参加したことがない学生に対して、活動のやりがいや楽しさを伝え、活動に対する不安や疑問を解消させることで、ボランティア活動への参加を促すこと、また、学生がボランティアセンターを気軽に利用できるように、ボランティアセンターで受けられるサービス等の紹介を行うことを目的に開講した。



講師からは、ボランティアの種類、活動内容などについて、幅広くお話しいただいた。また、質疑応答やグループディスカッションを通して、ボランティア活動に対する考えを深めた。

セミナー終了後にも講師に質問をするなど、学生たちがボランティア活動に強い興味を抱いている様子を伺うことができた。

日 時	10月7日(水) 14時40分～16時10分
場 所	オンライン (Zoom) (希望者のみ千里山キャンパス凜風館4階ミーティングルームにて受講)
講 師	社会福祉法人 大阪ボランティア協会 杉浦 健 氏
受講者数	33名 (Zoom21名・学内受講者12名)

----- 【受講者の声】 -----

●講師の方が話されていた「やりたい」が「できる」をベースに、ボランティアをすることが重要だと思った。そのために学生のうちにたくさんの引き出しをつくり、「できる」ことを少しでも増やしていきたいと感じた。
(文学部・2年次生)

●海外に行って子どもたちを助けるといった大きな活動ではなくても、身近にボランティアは存在しているということを改めて理解できた。自分にできることとしては非常に小さいことなのかもしれないが、相手にとっては大きな支えになることがあることを教えてもらった。今後どうするのかを考える上で、本当にためになる講義で、一生忘れないと思う。受講して良かったし、自分もできることからやっていきたい。
(文学部・2年次生)

2.災害ボランティアガイダンス 2020

コロナ禍で実際に被災地で活動はできないものの、学生の「災害ボランティア」活動に対する意識を高め、実際のボランティア経験を聞くことで、今後学生がより良い意思決定ができるように支援することを目的として開講した。

はじめに、本学学生団体 KUMC の学生 2 名から、団体が子ども向けに行っている防災授業の活動と、2019 年夏に行った東北ツアーで学んだことの発表があった。

続いて、講師から、「ボランティアとは？」という基本的なお話から、ご自身の「災害ボランティア」の経験を踏まえた講話があった。「災害ボランティア」は、力仕事だけではなく、Needs（求められること）と、Wants（やりたいこと、できること）が一致すれば、それがボランティアにつながるという話があり、学生たちは、実際に自身が災害にあった時にどのように行動すればよいか、その心構え等について理解を深めるとともに、多様なボランティアの形について考える機会となった。



日 時	11月25日(水) 16時20分～17時50分
場 所	オンライン (Zoom) (希望者のみ千里山キャンパス凜風館4階ミーティングルームにて受講)
講 師	共働プラットホーム代表 杉浦 健 氏
受講者数	23名 (Zoom17名・学内受講者6名)

----- 【受講者の声】 -----

●もともと災害ボランティアに興味があったので参加しました。今まで、災害ボランティアは、時間や労力、費用などにおいて、かなり余裕のある時でないとは出来ない、いわば容易に出来るものではないとばかり思っていました。先生のお話を聞いて、災害ボランティアに限らず、いろんなボランティアでも多種多様な支援方法があることを知りました。活動に参加する時は、自分でもできることから取り組んでいこうと思いました。災害ボランティアは遠い存在だと感じていましたが、今回参加して身近なものとして考えることができました。 (文学部・2年次生)

●今まで災害ボランティアに対して持っていたイメージが変わり、自分でもできることがあるのだということが分かり、とてもためになりました。また、『助けて』という受援力の大切さを初めて知りました。 (法学部・1年次生)

3.コミュニケーションスキルアップ講座

▶「コミュ力向上！講座」ーコミュニケーションの基本からオンライン活用スキル！ー（全2回）

新しい生活様式では、「お互いの表情」が見えない中でも円滑に交流できるコミュニケーション能力が求められる。本講座は、学生生活はもちろんのこと、ボランティア活動や課外活動の場でも活かせるオフライン・オンラインでのコミュニケーション基本スキルや、オンラインツールを活用したミーティングを行う際のファシリテーションスキルを学ぶことを目的に開催した。

新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、対面で話す機会が減ったことから、改めてオンラインツールを活用した他者との円滑なコミュニケーションについて考えるきっかけになった。



日 時	12月14日（月）14時40分～16時10分 12月17日（木）16時20分～17時50分
場 所	オンライン（Zoom） （希望者のみ千里山キャンパス凜風館4階ミーティングルームにて受講）
講 師	シチズンシップ共育企画代表 川中 大輔 氏
受講者数	第1回 32名（Zoom29名・学内受講者3名） 第2回 30名（Zoom26名・学内受講者4名）

----- 【受講者の声】 -----

●「聴く人が場を作ることができる。」この考え方がとても素敵で、心に残りました。話し手と聞き手のそれぞれが歩み寄ることで、会話での不安は無くなります。特に今はオンラインでの会話も多く、会話をすることが難しい環境ではありますが、相手に一步踏み込む、踏み込んでもらえる話し方を自分なりに考えて身につけたいと思うきっかけになりました。（法学部・2年次生）

●自分自身が、いつもコミュニケーションをどういう態度や形でとっているかを考えるきっかけになりました。ちょっとした工夫で、より良いコミュニケーションを取れるようになるということも分かりました。良い聞き手になれば、話し手側も穏やかな雰囲気です。話をしようというのを肝に銘じておきたいです。（社会学部・3年次生）

2. ボランティアセンター学生スタッフについて

ボランティアセンター学生スタッフとは
ボランティアセンター学生スタッフ活動記録
学生スタッフ代表からの一言



学生スタッフについて

「ボランティアセンター職員とともにセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う。」という理念のもと活動する団体です。学生スタッフ自らもボランティア活動に参加し、関大生にボランティアの魅力を伝えています。現在 91 名の学生が所属しています。

1. ボランティアセンター学生スタッフの活動

▶学生スタッフによるボランティアの情報紹介 (オンライン・ボランティアコーディネート)

本学学生の「ボランティアって何だろう?」という疑問や、「こんなボランティアをしてみたい!」などのボランティアに関する相談に、学生スタッフが対応している。

2020 年度秋学期からは、Zoom を活用したオンライン・ボランティアコーディネートを実施した。



▶ボランティア体験ツアーの企画・運営

初めてボランティア活動に参加する本学学生が、一歩踏み出せるように、関大生同士で活動するボランティア活動を企画・運営している。

2. ボランティアセンターと学生スタッフ幹部及び役職者とのミーティング

学生スタッフの代表・副代表で構成する幹部と職員が、定期的にミーティングの時間を設け、情報共有や意見交換を行っている。企画準備の進捗状況や団体運営についての相談が中心ではあるが、職員と学生スタッフのコミュニケーションの場にもなっている。職員が代表者と話し合うことで、その時々学生スタッフ全体の強みや弱みを知り、団体として成長していけるような支援につなげている。

また、学生スタッフは5つの班に分かれて活動をしているため、幹部・各班のリーダー・会計担当・ボラ団担当といった役職を担う学生間での情報共有の場として機能するように、職員を交えて役職者とのミーティングを隔週1回昼休みの時間に行っている。

いずれも Zoom を活用したオンラインでのミーティングとしている。

3. 広報活動

学生スタッフは、ボランティア体験ツアー前に、学生スタッフが作成したチラシを関西大学構内にて配布する等、本学学生に少しでもボランティアを始めるきっかけを作るための広報活動を積極的に行っている。また、このほかに、学生スタッフが運用している Twitter の更新に加え、ボランティア体験ツアー実施後に、活動写真を交じて活動紹介を掲載する「ぼらぼら blog」の更新も行っている。機関紙として年に3回「Volury」を発行しているが、2020年度は新入生向けにボランティアセンターや学生スタッフの紹介を掲載した春号のみの発行にとどまった。例年、ボラリーWEEK として、凜風館入口や食堂、凜風館前などで作成した「Volury」を学生スタッフが配布していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため配布活動ができなかった。

4. 新入生に向けた広報活動

新入生を対象にボランティアセンターの認知度を高めることで、ボランティアをより身近なものに感じてもらうことを目的に、新入生歓迎行事で広報活動を行い、新たな学生スタッフの勧誘を行っている。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年に比べて規模を縮小した形での実施となった。



日 時	9月21日(月) 11時00分～14時00分 9月22日(火) 15時00分～19時00分
場 所	100周年記念会館
内 容	ボランティアや学生スタッフの活動に興味を持った新入生に対して、ボランティア情報や活動内容の紹介を行った。

また、例年は、学生スタッフを含む学内のボランティア団体との合同イベントであるボランティアフェスティバルを行っている。しかし、2020年度は対面での実施が難しかったため、新入生にボランティア団体の活動紹介をすることで、団体のことを知ってもらうとともに、本学のボランティアの多様性や、ボランティアの親しみやすさなどを知ってほしいという学生の思いを込めた、オンラインイベントを、Zoomを活用して実施した。

2020年度は、各学部でのボランティアガイダンスが実施できなかったことから、本センターホームページにガイダンス動画を掲載し、新入生にボランティア活動について知ってもらえるような広報活動を行った。

5. 新スタッフガイダンス

学生スタッフを希望する学生に対して、本センターホームページから新スタッフへのエントリーを行った後、職員から 90 分程度のガイダンスを行っている。ここでは、ボランティアセンター（ボランティア活動支援グループ）の位置づけ、クラブ・サークルとの違い、大学からの支援があること、自分たちがボランティア活動に参加するだけの団体ではなく、ボランティアの魅力を発信する団体であることなどを中心に、ボランティアに関する諸注意や学生団体の運営についてのアドバイスを行っている。その後、「学生スタッフ登録申請書」の提出を求め、本センター学生スタッフの所属を認めている。

6. ボランティアセンター学生スタッフ養成講座

学生スタッフ自身のスキルアップをめざした研修にも力を入れている。2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Zoom を活用したオンライン形式で実施した。

学生スタッフ養成講座として実施したコーディネート講座では、第 1 回を学生スタッフとしての心構えや改めてボランティアコーディネートについて学ぶ時間とした。第 2 回では、オンラインでボランティアコーディネートを行う際の Zoom 操作方法を実践形式で理解を深めた。



事業名	【第 1 回】コーディネート講座
日時	11 月 26 日 (木) 18 時 00 分～18 時 45 分
場所	オンライン (Zoom)
講師	ボランティアセンター職員
参加者	学生スタッフ 27 名
内容	学生スタッフの一員としての心構え/マニュアル配布 ボランティアコーディネートとは

事業名	【第2回】コーディネート講座
日時	12月3日(木)18時00分～18時45分
場所	オンライン (Zoom)
講師	ボランティアセンター職員
参加者	学生スタッフ 22名
内容	オンライン・ボランティアコーディネートにおける Zoom 操作方法 オンライン・ボランティアコーディネートの広報について

7. 2020年度関西大学ボランティア団体活動報告会「ボランティアサミット」

2020年度は、「ボランティアサミット」の名の下、2020年度の活動を振り返り、この機会に新たな知見やアイデアを得て、2021年度に向けて前向きな気持ちでボランティア活動に取り組めるような場とすることを目的に活動報告会を実施した。

第1部は本学ボランティア団体から、2020年度の活動報告および2021年度に向けて前向きな活動目標を発表した。

第2部では本学ボランティア団体に所属する学生に加えて、他大学所属の学生をパネラーに迎え、「コロナ禍での活動でぶち当たった壁」をテーマに、パネルディスカッションを行った。ボランティアの内容や置かれる立場が違う中で、それぞれに工夫した点やコロナ禍での活動だからこそできた経験などを共有した。その後、パネルディスカッションを踏まえて、6グループに分かれた参加者が「2021年度の活動に向けて」をテーマにディスカッションを行い、2021年度の活動に向けて意見を交換した。

学生スタッフ活動記録

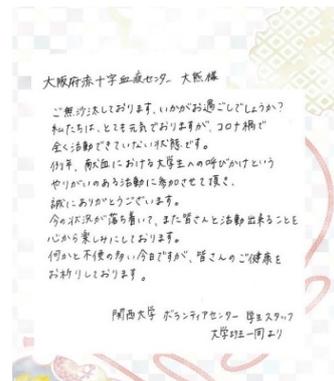
学内でのボランティア活動の企画やさまざまな社会問題の啓発活動を行っている。

1.お手紙大作戦～伝えよう感謝の言葉～

例年、学外の団体の協力のもとさまざまなボランティア活動を行っているが、コロナ禍のもと活動できない状況が続いている。このような対面での活動ができないときだからこそ、人とのつながりを大切にし、「ありがとう」の気持ちを形にして届けることを目的として実施した。

これまでボランティア活動の際にお世話になった方々へ、「暑中見舞い」としてありがとうの気持ちを届けるお手紙を作成し、活動時に撮影した写真とともに、郵送した。

遠く離れていてもお互いを想う気持ちは変わらず繋がっているということを実感でき、改めて感謝の気持ちを考える機会となった。後日、手書きのお返事や感謝のお言葉をいただき、これまでのボランティア活動を通じた繋がりをコロナ禍で改めて感じる事ができた。



日 時	7月中旬～下旬
内 容	2019年度連携したボランティア活動団体（9団体）へ暑中見舞いとして昨年のお礼のお手紙と昨年の活動写真を送付した。
参加者	学生スタッフ 15名

----- 【学生スタッフの声】 -----

- この取り組みを行ったことで、遠く離れていてもお互いを想う気持ちは変わらず繋がっているという事を実感することができ、良い経験になりました。 （社会学部・3年次生）

2.3 大学交流会 大学生が考える環境ボランティアの未来～きっと答えは一つじゃない～

コロナ禍で、対面でのボランティア活動ができないなか、ボランティア活動を実践している学生が集い、ともに考え、悩み、交流し、その中で得た知見をもとにボランティア活動におけるリーダー像を具体化していくことを目的に実施した。

第1回は、「環境問題から考える大学生ができること～ボランティアの道をリーダーが切り開く～」をテーマに、大学生が取り組むべき環境問題や、各自が所属する組織について考える機会になった。

第2回は、「日本一の山“富士山”と日本最大の湖“琵琶湖”の環境問題」をテーマとして、他大学の環境ボランティア活動を知ること、各地の環境問題を知り、原因を議論する中で、自分たちの活動に活かせる視点を獲得する機会となった。

第3回は、「大学生が考える環境ボランティアの未来～きっと答えは1つじゃない～」をテーマとして、外来種・3R・森林伐採・海水汚染・プラスチックごみなど、興味のある環境問題について原因・解決方法・解決後の未来について議論を行った。改めて各問題への意識を高め、自分たちの活動に活かせる視点を獲得する機会となった。

全3回を通して、3大学での交流会だけでなく、身近な環境問題について考えるきっかけとなった。



----- 【学生ボランティアの声】 -----

【第1回】講座を聴き、勉強になることがとても多かったです。事例検討の中には、私たちの団体の現在の状況と同じ部分があり、身近なこととして考えることができました。

(法政大学・3年次生)

【第2回】外来植物自体も詳しく知らなかったし、その駆除が非常に大変なことも初めて知りました。他大学との交流で活動について詳しく聞くことは重要であると思いました。

(明治大学・3年次生)

【第3回】自分の団体にも言えるような問題点に対するリーダーシップを学ぶことができました。

(関西大学・2年次生)

3.学生スタッフオンライン養成合宿（夏）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、例年とは異なるオンライン形式で実施した。

ボランティアセンター学生スタッフ同士が協力し、学生スタッフとしての在り方を見つめ直し、今後活かしていけるように、「学生スタッフの親交を深める」、「学生スタッフがどのような活動をしているのか知ったり、理解を深めたりする」、「今後どのような活動ができるかを考える」、この3つを目的に実施した。



日 時	9月17日（木）10時30分～17時00分
場 所	オンライン（Zoom）
内 容	新スタッフとの交流・お楽しみワークとして自己紹介やアイスブレイクをし、学びのワークとして学生スタッフの今後を考えるワークを実施。
参 加 者	学生スタッフ36名、教職員5名

4.オンライン・ボランティアコーディネート

ボランティアに関心のある本学の学生にボランティア活動の魅力を発信する一つ的手段として、ボランティアコーディネート活動を実施していたが、対面での課外活動の自粛に伴い、Zoomを利用してオンラインでのボランティア・コーディネートを実施した。

新入生にとって、春から何か新しいことに挑戦したいという想いを抱いていても、来学できない日々が続いていた。そこで、秋からの対面授業開始に伴い、関大生のボランティア活動参加への後押しとなるべく、コロナ禍でのボランティア活動に参加するにあたっての説明やボランティア紹介を学生目線で行った。



日 時	10月5日（月）～12月4日（金）12時20分～12時50分（平日のみ実施）
場 所	オンライン（Zoom）
内 容	ボランティアに関心のある学生に対しボランティアセンター学生スタッフがそれぞれに適切なボランティアを紹介し、活動のサポートをする。

5.琵琶湖ボランティア活動に向けた下見

今後の活動実施に向けて、琵琶湖全体の外来生物やゴミの散在状況を確認するために、南湖1カ所、北湖3カ所を現地で調査をした。また、湖岸によっては、足場がそれぞれ異なるので、活動しやすい場所はどのような場所かを確認した。

ゴミの有無だけではなく、どのように実際に活動をするのか、外来生物や外来魚回収BOXについての調査も行った。

4カ所の下見を終えて、外来生物オオバナミズキンバイは確認することができなかった。今回下見をした場所のうち、外来魚回収BOXは2カ所で確認でき、浜辺には数多くのゴミが落ちていた。今回の活動下見を生かし、琵琶湖での実際の活動に向けて検討を行った。



日 時	11月8日(日) 13時00分～16時00分
場 所	琵琶湖周辺 ①守山市 赤野井湾付近 ②大津市 和邇浜付近 ③守山市 なぎさ公園付近 ④野洲市 佐波江浜
内 容	琵琶湖全体の状況を知る為に、下見に行き外来植物やゴミの状況を調査。
参加者	学生スタッフ8名(3チームに分かれ実施)

6.2020 年度 千里キャンドルロード

例年、9万個のキャンドルに灯をともしイベント「千里キャンドルロード」に参加し、ボランティア体験ツアーとして実施している。2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、SNSを通して、地域を応援するプロジェクトに参加した。

学生スタッフは、ボランティアセンターのInstagramから、紙コップに「生きる」をテーマとした、イラストやメッセージを描き、「#千里キャンドル2020」と投稿した。



日時	11月10日(火) 12時00分～14時00分
場所	誠之館2号館1階ボランティアステーション
内容	Twitter・InstagramなどのSNS上で、メッセージを書いた紙コップの画像を投稿し、地域活性化に貢献する。
参加者	学生スタッフ5名

7. 関大クリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～

関大前のゴミ拾いは、関西大学のキャンパスの景観を保護することを目的とした活動であるが、加えてゴミ拾いという比較的気軽に参加できる活動という利点がある。この利点を活かして、ボランティア活動が初めての新スタッフも気軽に参加し、ボランティアのやりがいを感じることで、今後の活動の参加率向上にもつなげるという目的もある。

新スタッフにとっては初めての活動のため、活動前にアイスブレイクを行った。学年に関係なく学生同士が交流を取りながら、ボランティア活動を行い、学生スタッフ間の仲を深めた。

ゴミ拾いは、身近に簡単にできるボランティア活動でもあり、タバコの吸い殻や缶、使い捨てマスクが落ちている現状を見て、ゴミ拾いを体験することにより、生活の意識が変わるきっかけとなった。



日 時	11月28日(土) 11時00分～12時30分
場 所	関西大学千里山キャンパス周辺
内 容	大学周辺の清掃活動
参加者	学生スタッフ25名(4チームに分かれる)

----- 【学生スタッフの声】 -----

- 今まではみんなで集まって活動することが当たり前だったので、特にありがたみを感じていなかったけれど、この状況下で久々にみんなで集まって活動できたことで、人が集まって何かできるということは、一つ一つが貴重な経験だと思いました。(政策創造学部・3年次生)
- 今回の活動を通して感染症対策をしながら、他のボランティアスタッフ学生スタッフと交流をしつつ楽しくボランティアをすることができ、とても良かったです。(法学部・1年次生)

8.高槻市立南大冠小学校 4 年生のためのキャリア教育インタビュー動画の作成

高槻市立南大冠小学校 4 年生の総合的な学習として、キャリア教育「よりよい学校をつくろう～ボランティアの方々の想いをきいて～」のインタビューを引き受け、ボランティア活動についての動画撮影を実施した。

「ボランティアセンター学生スタッフに加入したきっかけ」や「ボランティア活動の準備にはどれくらいの時間がかかるのか」、「これからボランティア活動をはじめるときのアドバイス」などの質問が寄せられた。

コロナ禍であったが、ボランティアの魅力を伝えるという、学生スタッフとしての活動ができた。学校に伺い、直接交流することはできなかったが、完成した動画を見た小学 4 年生のみなさんから、かわいいイラスト付きのお礼が届き、貴重な交流の場となった。



日 時	12月7日(月) 12時20分～12時50分
場 所	千里山キャンパス誠之館 2号館 1階ボランティアステーション前
内 容	インタビュー動画撮影
参加者	学生スタッフ4名、職員1名

----- 【高槻市立南大冠小学校 4 年生の声】 -----

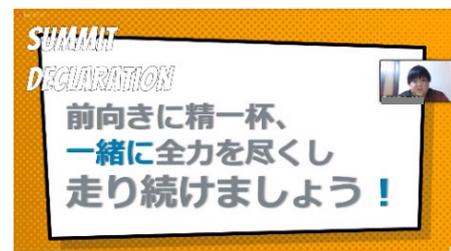
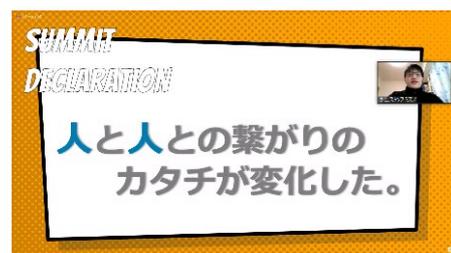
- わたしたちのために動画を作成して送ってくれてとてもうれしかったです。本当は会ってちゃんと話したりしたかったけど、コロナウイルスがあってそれができないのでごんねでした。でも動画で送ってくれてうれしかったです。ありがとうございました。
- 関西大学ボランティアの方々は、人を助けようと、がんばっているという事を動画で見せてもらいました。最初は何をしているか全然しりませんでした。このインタビューをきっかけに今まで分からなかったことがわかったのでありがたく、うれしく思っています。しょう来関西大学ボランティアでぜひ活動してみたいと思っています。
- 動画でしたが、とてもおもしろくて見やすくとてもいいと思いました。動画をみてぼくたちもボランティアをしようかなと思いました。少しの時間でしたが、ボランティアのことをしれてよかったです。

9. 関西大学ボランティア団体活動報告会ボランティアサミット

コロナ禍で、本センター主催行事の中止が相次ぐなか、ボランティアセンターが支援する各団体は、これまでとは異なる形で活動を実施した。ボランティア団体7団体が、2020年度の活動を振り返り、コロナ禍のこの機会に、新たな知見やアイデアを共有し、2021年度に向けてポジティブな気持ちでボランティア活動に取り組めるような場とすることを目的に実施した。

第1部の各団体からの活動報告では、2020年度の活動を振り返り、それぞれ2021年度の活動に向けて前向きな活動目標を発表した。第2部では、本学のボランティア団体に所属する学生に加え、他大学の学生をパネラーに迎え、「コロナ禍での活動でぶち当たった壁」をテーマにパネルディスカッションを行った。ボランティアの内容や置かれる立場が違う中でも、それぞれに工夫した点やコロナ禍での活動だからこそできた経験などを共有した。そしてパネルディスカッションを踏まえて、参加者が6グループに分かれて「2021年度の活動に向けて」をテーマにグループディスカッションを行い、2021年度の活動に向けて意見を交わした。最後にサミット宣言と題して、本センター学生スタッフから2021年度に向けて決意表明を行った。

オンラインでの活動報告会は初の試みであったが、他大学の学生やボランティア団体に所属していない本学学生に多く参加してもらうことで、さまざまな意見の交換の場となった。同じ状況で共通の苦悩をもつ学生同士が情報交換することで、2021年度の活動に活かすことを期待する。



日 時	2月27日(土) 12時20分～15時30分
場 所	オンライン (Zoom)
内 容	第1部 活動報告 第2部 意見交換 ○パネルディスカッション 「コロナ禍での活動でぶち当たった壁」 ○グループディスカッション 「2021年度の活動に向けて」
参加者	44名(本学ボランティア団体所属学生23名、本学一般学生7名、 他大学学生3名、学生スタッフOB1名、教職員9名)

----- 【参加者の声】 -----

- 団体によってさまざまな工夫をしながらコロナ禍を乗り越えていたことを知った。今後の参考にしたいものもあり、有意義な時間だった。
(関西大学・2年次生)
- 各団体の頑張ったこと、悩んでいることを共有することで、同じように何とか活動をしたいと思っている仲間がいることを肌で感じる事ができたのがとても良かったです。
(関西大学・2年次生)

10.3 大学オンライン報告会 ―コロナ禍で駆け抜けた 2020―

2020年8月及び9月に実施した三大学オンライン交流会(全3回実施)を経て、2020年度の総括的な場を設けた。3大学でボランティア活動を行っている学生が集まり、交流にとどまるだけでなく、1年間の活動報告の場を創出した。

また、2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、緊急事態宣言に伴う不要不急の外出制限や各大学の方針による課外活動自粛といった状況下であり、これまでとは異なるボランティア活動となった。

この機会に、新たな知見やアイデアを共有し、2021年度に向けてポジティブな気持ちでボランティア活動に取り組むことを目的に実施した。



日 時	3月3日(水) 13時00分~15時30分
場 所	オンライン (Zoom)
内 容	各大学の活動報告、2021年度に向けたアイスブレイク、ディスカッション
参加者	34名(関西大学7名、法政大学6名、明治大学10名、職員13名)

----- 【参加者の声】 -----

- 自分はどうしてもオンラインのマイナスな面にばかり目を向けてしまっていたので、今日の報告会でオンラインの魅力についても考えることができたのはとても良かったです。今日は、ステキな報告会に参加させていただきありがとうございました。自分にとっては他大学の人とお話しすることが新鮮で、たくさんのことを聞けてとても楽しかったです。
(法政大学・2年次生)
- 2020年の活動で手探りな部分が多く、解決策を共有し、新たなアイデアを得たいと思い参加しました。他大学のアイデアや、活動の状況が知れてとても充実していました。夏にも行っていたということなので、ぜひ今後も継続して開催して頂けると有り難いです。
(明治大学・4年次生)
- みんな前向きな考えを持っていたのでやる気が出ました。
(関西大学・2年次生)

11.学生スタッフオンライン養成合宿（春）

春合宿においては、「交流ワーク」で学生スタッフ同士の親交を深め、「学びのワーク」では、吹田市社会福祉協議会から講師を招き、「コロナ禍でのボランティア活動」についてお話をいただいた。

これまでと同じやり方で活動できなかった2020年度を振り返り、改めて「ボランティアとは何か」、そして「今後どのように活動していくか」について考えた。

コロナ禍により、例年行う寝食を共にする合宿ではない、オンライン形式合宿となったが、学生スタッフの一人ひとりがボランティアに対する活動意欲を高め、これからの活動をより良いものにしていく有意義な時間となった。



日 時	3月10日（水）13時00分～17時00分
場 所	オンライン（Zoom）
講 師	社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会 主幹 新宅 太郎氏
内 容	学生スタッフ間の交流・お楽しみワークとして自己紹介やアイスブレイクをし、学びのワークとして学生スタッフの今後を考えるワークを実施。
参加者	37名（松村所長、石井副所長、ボランティア活動支援グループ職員3名、学生スタッフ32名）

----- 【学生スタッフの声】 -----

- コロナ禍だからと言って、ボランティアの活動を諦めるのではなく、考え方や方法を変えて、今までになかったような新しいボランティア活動をすることができると学びました。さまざまな環境に適応して、今できることを考えることが大切だなと思いました。
(2年次生)
- 学生スタッフ同士の交流が不足している中で、なんとかみんなで繋がる機会があつてよかったです。新宅さんの貴重な講義を受講することができたり、学生スタッフのみんなとお話しできたりして嬉しかったです。
(2年次生)
- 学生以外の視点から、他大学のことも含め自分たちと違う角度からの意見が聞けて、考えを深めることができた。
(1年次生)

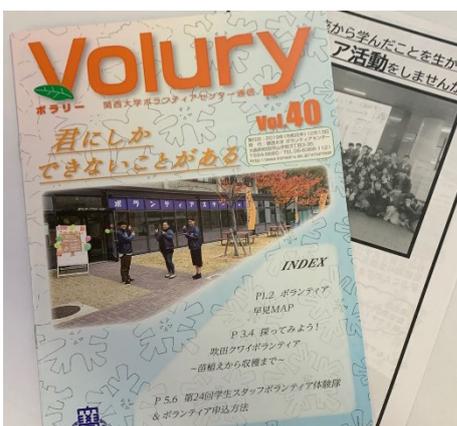
学生スタッフ代表からの一言

ボランティアセンター学生スタッフ代表
2020年度代表 2年次生 石倉稜也

絶対に忘れてはいけないのは「人生は一度きり」だということである。たとえ、今、制限された状況にあろうとも、「やりたいことをやるべき」なのだ。今、どんな場にいるかは関係ない。今、どんなことをやりたいかが重要である。いい加減な主張かもしれないが、これにはしっかりと理由がある。大学に限らず、組織や社会にはさまざまなコミュニティがあるのだから、自分のやりたいことができる場所が必ずある。苦であれば、コミュニティに属さずに個人ですることも可能だ。

本題に入ろう。私にとっては、過去2年に渡って携わってきたボランティアセンター学生スタッフ（以下、学生スタッフ）がその場だったという話である。1年生の時に、今までやったことのない事に挑戦しようと思い、学生スタッフになろうと考えた。手書きの登録申請書には、「ボランティアを広めたい」「企画運営に携わりたい」など、自分の今やりたい事をつぶさに書き記した。

所属してからは、やりたいことには、自分からどんどん挑戦した。具体的には、以下のよう活動だ。1つ目は、ボランティアと学生スタッフを広めるために行った、数100名に向けたプレゼンテーションである。プレゼンテーションする内容を自分で考えて、論を組み立



てた。また、事前に人前でリハーサルをしてフィードバックをもらった。結果、本番では台本を見ることなく発表することができた。2つ目は、ボランティアを紹介する広報誌の作成である。学外の印刷会社に依頼をして、自分たちが考えたデザインや、内容の発行物を作成する。私は表紙と裏表紙を担当し、冬から春への遷移をイメージしたイラストをデザイン

した。3つ目は、学生スタッフを対象とした養成合宿の企画運営である。職員方の協力も借りながら、ボランティアセンター養成合宿の担当メンバーと一緒に団体の抱えている問題を洗い出し、それを改善するためのワークを考案し運営した。





このように、私は学生スタッフでさまざまな活動に挑戦した。もちろん、学生スタッフとしてボランティア活動をした経験はあるが、この文章を通してボランティアの運営以外の活動を知っていただきたかったため記載しなかった。

最後に、「人生 100 年時代」とはよく言われるが、1日の3分の1を睡眠が占めるということを考えると、我々が活動できる時間はおよそ 30 年弱である。そんな「一度きりの短い人生」を悔いなく生きるために「やりたいことをやるべき」だと思っている。これを読んでいただいた皆さんにもそうしていただきたいと思う。

3. 学内ボランティア団体への支援について

学内ボランティア団体への支援
社会貢献を行う学生団体



ボランティア団体への支援

1.大学としての危機管理～ボランティア活動保険への加入の奨励～

ボランティアセンターでは、学内のボランティア団体（届出団体）に対して、活動の安心安全を確保するために、「ボランティア活動保険」への加入の奨励をしている。また、大学からボランティア（地域貢献）活動を依頼することもあり、学生の経済的負担を軽減するため保険加入相当額を助成している。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動がままならない団体もあったため、コロナ禍においてもボランティア活動を実施する団体のみ、ボランティア活動保険に加入した。

助成団体	児童文化実践サークル「うぶ」、文化会「ユネスコ研究部」、 ボランティアセンター学生スタッフ、学生団体「KUMC」、「WEVO」
------	--------------------------------------------------------------------

2.関西大学ボランティアセンター・ボランティア団体とのミーティング

ボランティアセンター学生スタッフが中心となって、ボランティア団体とともに、定期的にミーティングを実施している。このミーティングを行うことにより、ボランティア活動に関する情報共有をはじめ、ボランティアフェスティバルや新入生オリエンテーション期間に協力して勧誘活動を行うなど、学生団体同士の連携が促進されている。

開催日時	不定期実施 全 10 回
場 所	オンライン (Zoom)
参加団体	手話サークル「あっぷる」、児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」 児童文化実践サークル「うぶ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ 学生団体「KUMC」

3.関西大学ボランティア 8 団体紹介 Zoom

例年は新入生歓迎行事の時期に「ボランティアフェスティバル」と題して、凜風館 1 階学生ラウンジに団体紹介ブースを出展し、本学のボランティア団体を知ってもらうことを目的としたイベントを実施している。

2020 年度は、本学の授業形態がオンラインとなったことから、Zoom を活用したオンライン上での団体紹介イベントを実施した。

各団体の紹介 Zoom を撮影し、SNS 等を活用して本学学生だけでなく幅広く各団体の活動を紹介する機会となった。

実施日時	6月10日(水)13時00分～14時20分(8団体) 6月13日(土)13時00分～14時10分(7団体)
場 所	オンライン (Zoom)
参加団体	児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ、学生団体「KUMC」、「WEVO」



4.関西大学ボランティア団体引き継ぎ会

各ボランティア団体の幹部が交代するにあたり、次期幹部に対して学内ボランティア団体が連携・協力して活動しているイベントやミーティングの進め方について引継ぎを行った。

また、アイスブレイクでは新旧役職者のボランティア団体内の親睦を深め、グループワークの形式で普段のボランティア活動で困っていることを相談・共有し、団体同士の交流を深めた。

実施日時	11月25日(水)18時00分～19時30分
場 所	千里山キャンパス 凜風館4階 ミーティングルーム
参加団体	児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ 学生団体「KUMC」

社会貢献を行う学生団体

本学では、社会貢献活動を団体の活動として行っている学生がいる。彼らの活動は、学外からも高く評価されており、ボランティアセンターを通して各団体にボランティア依頼が多数寄せられる。

ここでは、団体の活動紹介と活動に関わっている活動者の声を紹介する。

1. 手話サークル「あっぷる」

目的

聞こえる聞こえないに関わらず、楽しむことを大切にしながら、日々手話の学習や手話エンターテインメント（手話歌・劇）などの練習を行っており、手話における表現力とは何かということ意識し、その向上に取り組んでいる。学園祭では、手話を交えた歌の発表を行うことで手話の普及、イメージチェンジなどを図っている。また、他の大学との交流や、地域のサークルでの活動で実際に聞こえない方と会話することで実践力を高める活動も行っている。

内容

毎週2回、手話の学習会を実施したり、手話歌や劇などの発表では、団体として統一感を意識しながら、さまざまな人に活動の成果を見てもらう機会を設けている。さらに、他団体との交流会では活動施設の手配から、手話通訳の依頼に応えたりと、大学外においても活動の幅を広げている。それらの活動を通して、たくさんの方々との出会いや今までにない経験を積むことができるよう取り組んでいる。（なお、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学園祭や他団体との交流会はすべて中止となった。）

【主な活動】

- ・大阪手話通訳問題研究会 交流会
- ・大阪手話通訳問題研究会 学習会



あっぷるん

代表者の声 斧田 朋未

2020年度はコロナ禍で対面活動ができない1年でした。しかし、Zoomを使った新しいオンラインでの活動を始めた1年でもありました。オンライン活動は初めてのことで大変なこともありましたが、手話の表し方や情報保障など私たちの活動を見直す良い機会になりました。また、オンライン活動になることで千里山キャンパス以外の学生も手話サークル「あっぷる」に入部することができ、部員の幅を広げることができました。2021年度は課外活動が緩和された際には、対面による活動も再開させていきたいと思えます。オンライン活動では自分の手話を画面を通して見ることができるという利点もありますが、それ以上に対面では表現力を感じ取ることができるという利点があるため対面活動を推進していきたいと思えます。

2. 児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」

目的

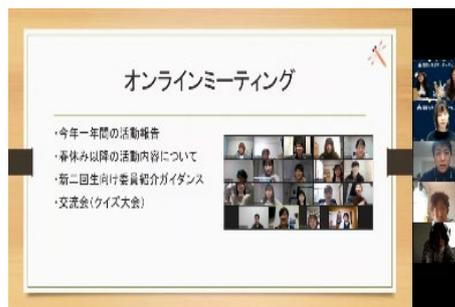
小学校の学童保育への訪問や子どもに関する地域行事への参加を通し、子どもたちと交流することで「いつもとは違う有意義な体験」を子どもたちに楽しんでもらうことを目標としている。

内容

毎週水曜日に小学校の学童保育へ訪問し、人形劇や紙芝居を披露したり、外で子どもたちと一緒に遊んだりする活動を行っている。また、土日や祝日では児童館や地域こども会などの依頼を受け、季節の行事に参加するなどの公演活動を行っている。(2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面での活動はすべて中止となったが、新たに動画を作成し、オンラインでの紙芝居を披露する活動などを行った。)

【主な活動】

- ・クリスマスプレゼント作成
- ・紙芝居の動画作成



ピロンくん

代表者の声 大倉 健五

今年度はコロナ禍の中、学童訪問をはじめ、これまで通りの活動を行うことが難しく、サークルとして「我慢」の1年でした。しかし、その一方で、オンラインでの新歓やミーティング、そして手紙での子どもたちへのメッセージ送付など、前例のないことを多く行う「挑戦」の1年でもありました。オンライン上で、どうすればメンバー間の親睦が深められるか。また、不安の最中にいる子どもたちにどうすれば笑顔届けられるか。こういった課題に対しメンバー間で案を出し合い、協力し合って乗り越えたこの1年は、サークルの今後にとって大きな「財産」になったように感じます。まだまだ先行きの見えない世の中ではありますが、来年度も、「あかとんぼ」として子どもたちの笑顔のために「何ができるか」をメンバー全員で考え、新たなことに挑戦し続ける1年にしていきたいです！

3. 児童文化実践サークル「うぶ」

目的

吹田市内の学童保育学級に通っている小学校1年生から4年生を対象とし、子どもの成長に携わることを目的とした活動を行っている。

子どもたちと年齢の近い私たち大学生が関わることで、普段接している指導員の方が見ることのない一面を引き出すことができる。そして私たちの行動が子どもたちの見本となることを心がけている。

内容

毎週水曜日に吹田市内の小学校の学童保育を訪問し、子どもたちと遊んだり、「うぶ」のプログラムである ペープサート(紙の人形劇)、紙芝居、身体を動かすゲームを子どもたちの前で披露している。また、その他にも夏休みの長期休暇を利用して地方の小学校に訪問し、体育館をお借りして1日間公演を行う合宿公演や子ども野外カーニバル、普段訪問している小学校の子どもたちを大学に招待するイベントを行っているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全ての行事は中止となった。

2020年度関西大学活動報告会
ボランティアサミット

関西大学 児童文化実践サークル

うぶ



発表者: 安井智香
2月27日(土)



うぶ 学童保育ボランティア

・毎週水曜日3限～
・吹田市内の小学校
紙しばいを読んだり、
ゲームレクリエーションで
遊びます。→うぶプログラム



ぱんぐーちゃん

代表者の声 杉山 武優

私たちの活動の中で、最も重要だと考えていることは、子どもたちの成長を感じられること、自分たちの活動によって子どもたちが笑顔になってくれること、一緒に自分たちも楽しめることです。

しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での活動が制限されたことにより、初めて子どもたちと会うことのできない1年となりました。そして、子どもたちと会えないという状況が続き、辞めていく部員の増加、新入生が入るきっかけとなる行事の減少により、人数の不足が加速し、さらに活動がしづらくなりました。部員全員が、早く子どもたちと直接関わりたいという思いが強く、今後の活動について、Zoomで何度も話し合いを行い、新入生の勧誘に力を入れてきました。これからは新入生と一緒にアイデアを出しながら、「うぶ」の新たな形の活動について考えていきます。

4. ボランティアサークル「チャレンジャー」

目的

ボランティアサークル「チャレンジャー」は、視覚特別支援学校や障害者福祉施設のイベントにボランティアとして参加することによる社会貢献を目的としている。また、普段接する機会の少ない障がいのある方との関わりを通して障がいに対する理解を深め、私たち自身も成長することをめざしている。

内容

従来は視覚特別支援学校での行事における手引きやサポート、障がい者福祉施設「ゆうゆう会」での行事における車いすでの移動のお手伝いや食事介助、トイレ介助などを行うことが主な活動内容だった。また、子どもとふれあうボランティアや24時間テレビの募金活動も行っている。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度はオンラインでの活動のみとなった。

【主な活動】

・月例ミーティング

・「まちつく」への参加 (Zoom)



チャレンジャーマン

※「まちつく」とは、ダンボールを使って“まち”をつくる夏休みの小学生向けワークショップです。

代表者の声 御福 和真

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により対面での活動ができなくなったことで、非常に苦しい1年でした。私たち「チャレンジャー」は、例年一緒におでかけや運動を兼ねたゲームなどをして一緒に活動を行ってきたので、オンラインへの切り替えが困難でした。日々どういった活動ができるか模索するなか、まちをつくらうイベントはオンラインで無事開催できました。これは今年度の大きな収穫だったように感じます。おそらく2021年度も大きく影響を受け、活動が従来のようにできないと思われていますが、活動を楽しみに入ってくれた1回生にも機会を提供できるように、お世話になっている活動先の方たちと連携をとりながら活動をしていきたいです。



5. 文化会「ユネスコ研究部」

目的

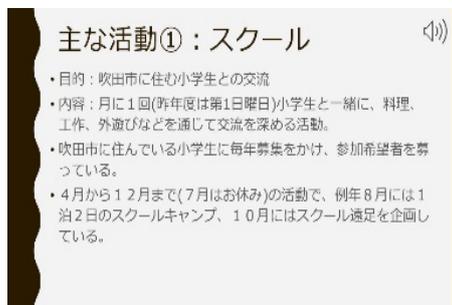
私たちはユネスコ憲章にある「心の中に平和の砦を」という理念に則り、主に子どもたちとの交流を中心としたボランティア活動を行っている。子どもたちに、普段あまり関わることのない大学生との交流を通じて、異世代交流の楽しさや集団行動の大切さを学んでもらうことが目的である。また、子どもたちとの交流により、部員が行動力や責任感を培い、新たな成長に繋げていくことも目的の一つである。

内容

吹田市在住の子どもたちと、月に一度交流する「スクール」を中心に活動している。「スクール」では、運動や料理、工作などをしたり、遠足やキャンプなどの活動も行っている。その他には、吹田市を中心に地域イベントの運営補助や企画、子ども会で行うイベントの運営補助などのボランティア活動にも取り組んでいる。(なお、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべて中止となった。)

【主な活動】

- ・「吹田ジャズ・ゴスペルライブ」運営補助



ゆねもん

代表者の声 柳瀬 太希

2020年度はコロナ禍により思うように活動ができませんでした。しかし、3月に「スクール」以外の活動で吹田市が行うイベントの運営補助では、1回生が数名参加したほか、毎月「スクール」の中止の旨を保護者の方に連絡する際にも1回生が手伝ってくれた、と担当の者から聞いた。活動の回数としては少なかったが、部員内の交流を大切にできた1年だったと思う。

これまでの地域との繋がりを大切にしつつ、2021年度はより活動の輪を広げるとともに、通常の活動を行えたらと思います。

6. 学生団体「KUMC」

目的

私たち「KUMC」は、地域の住民や子供たちを中心として地域に向けて防災に関する情報を発信し、地域全体の防災意識の向上に貢献することを目的として、地域密着型の防災啓発活動を展開している。そして、実際に災害が起こった時に、自分たちが伝えたことが活かされることを目標にしている。また、地域のお祭りやイベントなどにおいて、企画運営や警備のボランティアなどに参加することで、地域振興のお手伝いをするなどの活動にも取り組んでいる。

内容

地域の小学校における防災授業や図書館での防災絵本の読み聞かせなどさまざまなイベントに参加し、防災の知識を楽しく学んでもらえるよう取り組んでいる。また、活動では自作のパワーポイントやゲームを取り入れ、より楽しく知識を学んでもらえるような工夫をしている。

地域貢献活動として、吹田市、高槻市などを中心にさまざまなイベントにボランティアとして参加し、毎年春と冬には、学習の一環として東北地方を訪れ、語り部さんからお話を聞くなどして震災とその復興について学んでいる(2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止)。

【主な活動】

- ・ 高槻万博
- ・ 食の文化祭
- ・ 関大防災 DAY
- ・ 奥坂小学校 Zoom 防災授業



代表者の声 朝野 快

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、例年のような活動ができず悔しい思いもありました。そんな中でも新しい活動方法の開拓など様々な工夫をし、KUMCの活気を保つためにメンバーが一丸となって協力してきました。特に、中心的な活動である防災授業のオンライン化は感染症対策を講じる中、遠隔授業を可能にするため、大きな成果であったと感じています。このように新たな活動方法を模索し続けた結果、新しいボランティアの依頼をいただくなどの進展もあり、先輩方が築いてきたKUMCの歴史を改めて感じるとともに、私たちとしてもKUMCを発展させられたのではないかと感じています。来年度も防災啓発と地域振興という軸のもと、多くの活動やボランティアへの参加を行い、さらなる飛躍をめざして日々挑戦をしていきたいと考えます。



7. 「WEVO」

目的

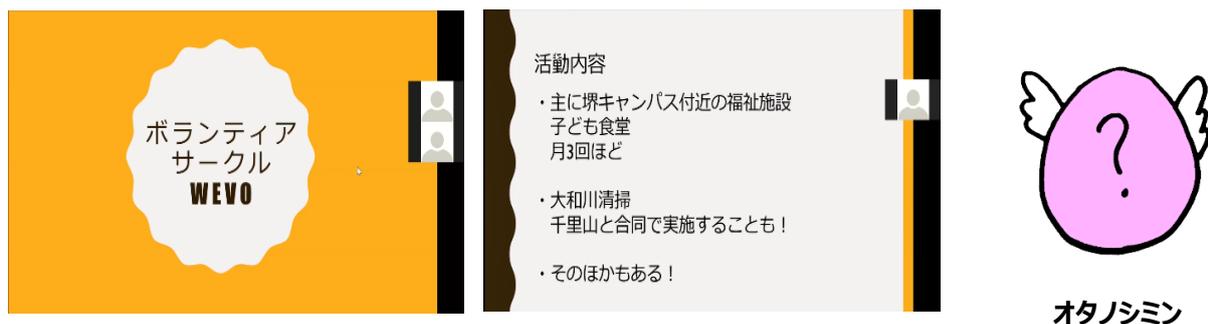
ボランティアサークル「WEVO」は、私たちにできるボランティアを楽しく行うことが目的である。また、活動する際に①地域とのつながりを大切にする、②事業所と連絡を取り合い調整や企画を行うことにより良い関係を築く、③ボランティア先での交流や経験を通しさまざまなことを学ぶ、という3点を意識して活動している。

内容

例年の主な活動は、社会福祉法人・堺福祉会・ハートピア堺での子ども食堂への参加である。毎月第1、3水曜日の夕方と第1土曜日の午前に行っている。子どもと一緒に遊んだり、宿題を見たりしている。その他、大和川清掃、自由研究フェスティバルの同行ボランティアなども行っている。(なお、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべて中止となった。)

【主な活動内容】

- ・子ども食堂（ハート食堂とおにぎり食堂）



The image shows a graphic layout for the WEVO club. On the left is a yellow circle with the text 'ボランティアサークル WEVO'. In the center is a white box with the title '活動内容' (Activity Content) and a list of activities: '主に堺キャンパス付近の福祉施設 子ども食堂 月3回ほど', '大和川清掃 千里山と合同で実施することも!', and 'そのほかもある!'. On the right is a pink egg-shaped character with wings and a question mark, labeled 'オタノミン' (Otanomin).

代表者の声 栗原 なつみ

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、学内外問わず対面での課外活動が自粛されていた期間が長く、ボランティア活動を行うことができなかった。そのため、新入生の勧誘にも力を入れることができなかった。秋学期になり、対面授業が再開されてから、初めて1回生と顔合わせをすることができた。感染リスクの高い活動はできないが、学内でのミーティングなどはできたと考えられるため、積極的に活動できなかったことは反省点である。

2020年度は初めての事態に戸惑い、思うように活動ができず、サークルの動きが止まってしまったが、2021年度は社会福祉法人・堺福祉会・ハートピア堺と連絡を取り合い、子ども食堂の活動を再開したいと考えている。また、WEVOのメンバーは福祉コースに所属している、または福祉コースに所属する予定の学生が多く、福祉分野に関心のある学生が多いため、今まで関わりのなかった福祉施設でもボランティア活動ができないか情報を集め、活動の幅を広げたいと考えている。

広報活動

ボランティアセンターでは、関大生にボランティア活動の魅力を伝えるために次の広報活動をおこなっている。

1.Web サイト

2019 年度より関西大学ボランティアセンターホームページがスマートフォンにも対応できるようリニューアルし、加えて、ボランティア団体の団体登録や学生ボランティア団体への依頼といった手続きを Web 上でもできるようになった。

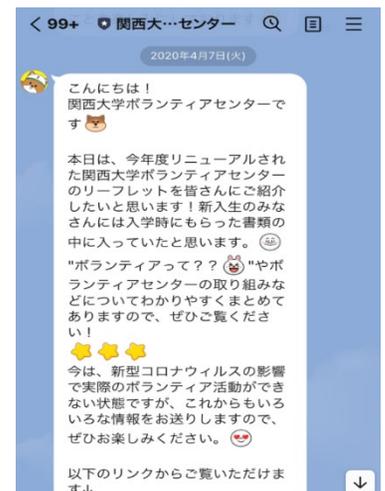


2020 年度リーフレットや過去の機関誌「Volury (ボラリー)」は関西大学ボランティアセンターホームページにも掲載しております。上記 QR コードにアクセスしてご覧ください。

2.公式 LINE

2019 年度より関西大学ボランティアセンター公式 LINE の運用を開始した。LINE では、ボランティア体験ツアーの紹介やピアサポート活動などを幅広く投稿している。これにより、メールマガジンよりも利便性の高い公式 LINE で、関大生に向けて充実した情報発信を行っている。

登録者数 780 名(2021 年 3 月 31 日現在)



3.公式 Instagram

2019 年度より関西大学ボランティアセンター公式 Instagram の運用を開始した。Instagram では、学生スタッフの活動内容や講座の様子、ピア・コミュニティ、学内ボランティア団体の紹介などを幅広く投稿している。活動中の笑顔の写真を中心に楽しさが伝わる写真を投稿して、ボランティア活動に対するハードルを下げ、気軽にボランティア活動に参加してほしいという願いを込めている。

登録者数 342 名(2021 年 3 月 31 日現在)



4. ボランティアセンターリーフレットの配布

2010年度より本学学生に配布している。本紙は、ボランティアセンターの認知度アップとボランティアセンター学生スタッフを含む学内ボランティア団体の新入生獲得を目的に作成し、新入生全員に配布している。

2020年度から新入生へはPDFファイルでの配布となった。



5. クリアファイル

2008年度から学生スタッフがコンセプトとデザインを考え作成しており、配布したクリアファイルは、受け取った学生が日常的に使用することで認知度向上に繋がっている。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新規の作成は行わなかった。

6. うちわ

2019年度の新しい取り組みとして、うちわを作成した。ボランティアセンターの認知度アップとボランティアセンター学生スタッフを含む学生のボランティア団体の新入生獲得を目的に、2020年度に配布するために作成したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため配布はできなかった。

7. 機関誌「Volury (ボラリー)」の発行

ボランティアセンター職員と学生スタッフが編集委員となって作成した。職員は、アドバイスと校正を中心に行い、学生スタッフの自主性を引き出すように支援した。



「Volury」Vol. 41 (2020年4月1日発行) 8,000部

新入生向けにボランティアセンター、ボランティアセンター学生スタッフの紹介をした。また、新入生に向けて、予定していた春のボランティア体験ツアーについて紹介した。

ボランティアセンター内規

制定 平成17年4月28日

(趣旨)

第1条 この内規は、関西大学学生センター規程（以下「規程」という。）第12条第2項の規定に基づき設置するボランティアセンター（以下「センター」という。）の運営等に関して必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、関西大学（以下「本学」という。）学生の社会参画活動を支援することにより、学生の自主性及び社会性の涵養に資することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) ボランティアの相談に関すること。
- (2) ボランティア情報の収集及び提供に関すること。
- (3) ボランティア講習会に関すること。
- (4) 関係行政機関、学外ボランティア団体等との連携・協力に関すること。
- (5) その他ボランティアに関すること。

(登録)

第4条 センターの利用を希望する学生は、登録するものとする。

(センター長)

第5条 センターにセンター長を置き、学生センター所長をもって充てる。

(ボランティア連絡協議会)

第6条 センターにおけるボランティアの基本方針、具体的活動内容等を協議するため、規程第12条第2項の規定によりボランティア連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、次の者をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 学生センター副所長 1名
- (3) 専任教育職員のうちから学長が指名する者 若干名
- (4) 学生サービス事務局長
- (5) 学生サービス事務局次長
- (6) ボランティア活動支援グループ長
- (7) 事務職員（ボランティア活動支援グループ・高槻キャンパス事務グループ・高槻ミューズキャンパス事務グループ・堺キャンパス事務室）若干名

3 協議会の議長は、センター長とし、副議長は議長の指名による。

4 第2項第1号、第2号及び第4号から第6号までに規定する委員の任期は、役職任期中とする。

5 第2項第3号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

6 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

7 協議会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(学生スタッフ)

第7条 センターに、学生スタッフを置く。

2 学生スタッフは、第3条に規定する事業に参画し、本学学生のボランティア活動を支援するものとする。

(事務)

第8条 ボランティアに関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

(補則)

第9条 この内規に定めるもののほか、ボランティアに関し必要な事項は、協議会の議を経て定める。

附 則

この内規は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この内規(改正)は、平成18年10月12日から施行し、平成18年8月1日から適用する。

附 則

この内規(改正)は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この内規(改正)は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

1 この内規(改正)は、平成26年4月1日から施行する。

2 この内規(改正)施行の際、第6条第2項第3号により選出される委員の任期は、同条第5項の規定にかかわらず、平成26年9月30日までとする。

附 則

この内規(改正)は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この内規(改正)は、2019年10月1日から施行する。

関西大学ボランティアセンターでは、以下に該当するボランティア団体の活動を紹介します。

- 1 公益性・公共性が高い活動
- 2 営利を目的としない活動
- 3 活動にあたり、安全性が高いと判断される活動
- 4 受け入れた学生に対し、教育的配慮を伴った対応をする団体における活動

(1) ボランティア募集の受付

- ① 初めてボランティア活動を募集する団体は、「団体の責任者の名刺」、「組織概要がわかるパンフレット等」および「ボランティア募集チラシ（A4サイズに限る）」を持参のうえ、来室をお願いします。（教育委員会等の公共的機関の場合はこの限りではありません。）
- ② 来室時に所定の「ボランティア団体登録用紙」に記入をお願いします。
- ③ ボランティア募集团体には、必要に応じて、規約、役員名簿、収支報告書、活動報告等の団体の実績がわかる書類等の提出をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。
- ④ 学生等がボランティア活動を行った際に、募集条件と異なる状況が判明した場合、精神的・肉体的苦痛を受けた場合等には、そのボランティア団体の募集を停止します。
- ⑤ 個人からのボランティア募集は受付いたしません。（地域の社会福祉協議会、大阪ボランティア協会およびその他関連機関へご依頼ください。）

(2) ボランティア団体・活動の選定基準（以下に該当するものは受付できません。また、この選定基準は受付時のみでなく、活動中にも適用いたします。）

- ① 法令に違反するもの
- ② 公序良俗に反するもの
- ③ 人体に有害なもの、危険が伴うもの
- ④ 政治的・宗教的活動を主たる目的とするもの
- ⑤ 関西大学ボランティア連絡協議会が不相当であると判断するもの

(3) ボランティア受け入れ団体との申し合わせ

ボランティア受け入れ団体と関西大学ボランティアセンターとは、以下の点を申し合わせ事項として確認します。

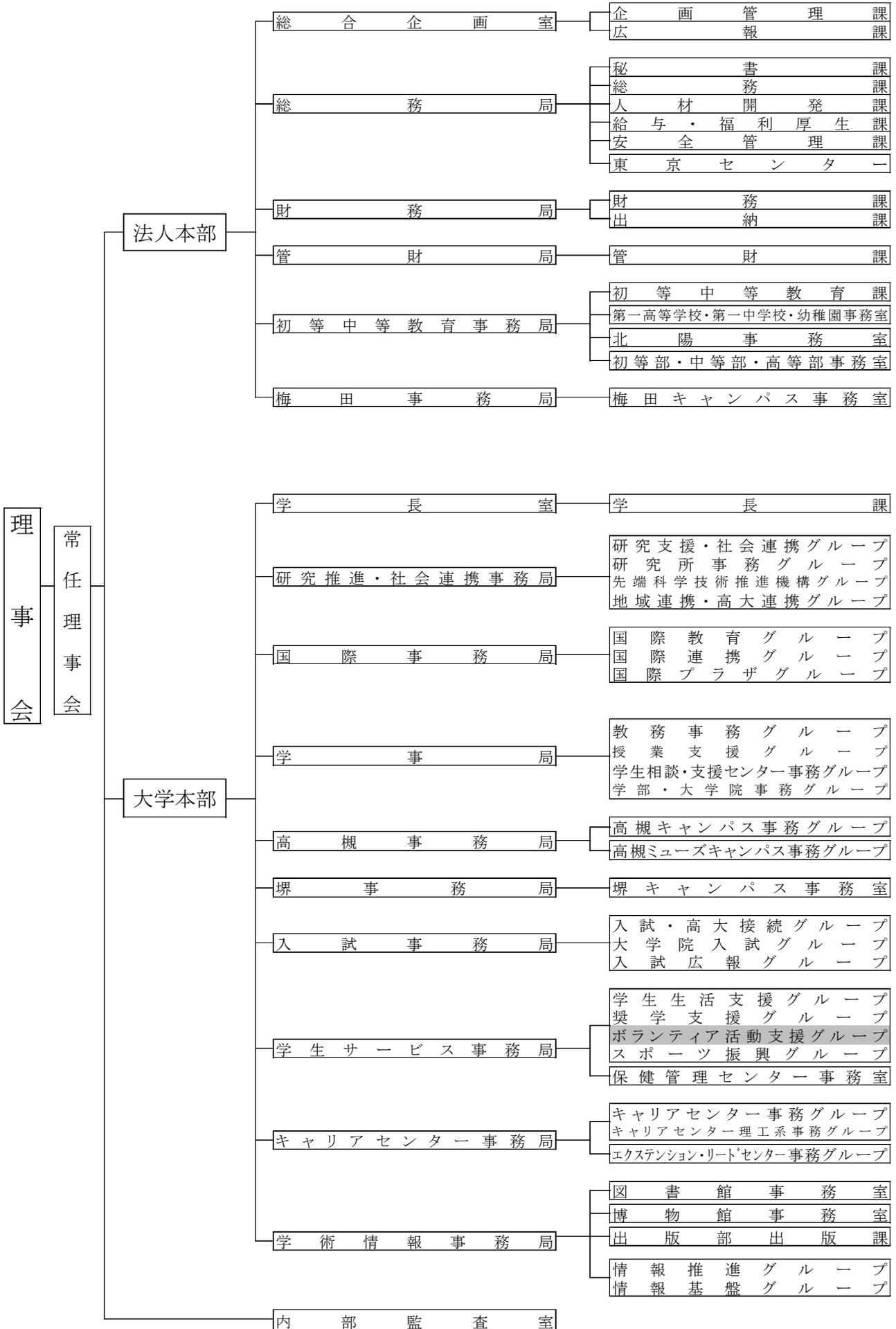
- ① ボランティア受け入れ団体はボランティア申込者に対し、活動内容や条件等を提示し、その内容について両者の間で合意のうえ、活動を始めることとする。
- ② ボランティア受け入れ団体は活動を始める前に、オリエンテーション等を実施し、活動に必要な情報や留意点をあらかじめ伝達し、活動が始まった後は、必要に応じて研修・支援等を行うこととする。
- ③ ボランティア活動中は、各団体ボランティア担当スタッフとともに活動を行うこととする。
- ④ 学生がボランティア活動を行う際には、あらかじめボランティア保険に加入していることを必ず確認し、未加入の場合は活動させないこととする。
- ⑤ 次の内容を含む活動については紹介できないこととする。
 - (ア) 22時以降6時までの深夜早朝活動
 - (イ) 精神的、肉体的苦痛が心配されるもの
 - (ウ) 水泳監視、ベビーシッターおよび病人の介護等の人命にかかわることが予想されるもの
 - (エ) 車の運転
 - (オ) 本来、有資格者によってなされるべき活動

(4) 免責事項

ボランティアセンターで紹介するボランティア情報に関して発生したトラブル等に対し、ボランティアセンターでは責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

2020年度 事務組織図

(2020年4月1日現在)



関西大学ボランティア連絡協議会委員

2020.4.1 現在

役 職 / 資 格	氏 名	任 期	備 考
ボランティアセンター長 (政策創造学部 教授)	岡本 哲和	役職任期中	委員長
学生センター副所長 (化学生命工学部 教授)	松村 吉信	役職任期中	副委員長
人間健康学部 准教授	福田 公教	2018.10.1 ～2020.9.30	
政策創造学部 准教授	西山 真司	2020.4.1 ～2020.9.30	
システム理工学部 准教授	倉田 純一	2018.10.1 ～2020.9.30	
学生サービス事務局長	村上 隆志	役職任期中	
学生サービス事務局次長	鈴木 啓祐	役職任期中	
ボランティア活動支援 グループ長	宇田川 真治	役職任期中	
ボランティア活動支援 グループ	中井 次郎		
高槻キャンパス グループ	古林 雅代 中島 貴代		
高槻ミューズ キャンパスグループ	島田 純 中村 勇毅 樋口 翔太		
堺キャンパス事務室	永山 大輔 楠田 佳那慧		

2020.10.1 現在

役 職 / 資 格	氏 名	任 期	備 考
ボランティアセンター長 (化学生命工学部 教授)	松村 吉信	役職任期中	委員長
学生センター副所長 (経済学部 教授)	石井 光	役職任期中	副委員長
人間健康学部 准教授	福田 公教	2020.10.1 ～2022.9.30	
政策創造学部 准教授	西山 真司	2020.10.1 ～2022.9.30	
システム理工学部 准教授	倉田 純一	2020.10.1 ～2022.9.30	
学生サービス事務局長	村上 隆志	役職任期中	
学生サービス事務局次長	鈴木 啓祐	役職任期中	
ボランティア活動支援 グループ長	宇田川 真治	役職任期中	
ボランティア活動支援 グループ	中井 次郎		
高槻キャンパス グループ	古林 雅代 中島 貴代		
高槻ミューズ キャンパスグループ	島田 純 中村 勇毅 樋口 翔太		
堺キャンパス事務室	永山 大輔 楠田 佳那慧		

関西大学には凜風館1階にボランティアセンターが設置されています。ボランティアセンターでは、関大生である学生スタッフが関大生を対象

実際にボランティア活動に参加するためには

コラム2 ボランティアセンター 学生スタッフとは

「ボランティアセンター職員と共にセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」との理念のもとに活動する団体です。約80名以上の学生スタッフが自らもボランティア活動に参加して、関大生に魅力を伝えていきます。

知らない世界を見てみたい。」など様々な想いを持っていきます。また、実際に活動した彼らからは、「自分とは異なる価値観や考え方を持つ方と出会え、そして新しい発見が生まれた。」「自分が人と人との繋がり的重要性に気づくことができた。」などの意見があります。

このようにボランティアの魅力は、それぞれが活動を通じて人間性を豊かにして、自分自身を成長させることにあります。様々な人と出会い、連携して活動することは、机上の理論では得ることはできません。



関大クリーン大作戦

に初めてでも気軽に参加できる、「ボランティア体験ツアー」等様々な活動を企画・運営し、実施しています。ただ、今は新型コロナウイルス感染症の影響で、ボランティア活動は一定の制限下にありますので過去の活動実績をもとに紹介します。

関大クリーン大作戦
大学周辺の清掃活動

千里山キャンパス等大学周辺を清掃するボランティア活動です。大学周辺で行うために多くの学生にとつて参加しやすい活動となっています。参加学生からは、「普段、足元を意識して歩かないけど、実は街にはゴミや吸い殻が落ちていたんだ。」などの感想を持ち、ゴミを一つ一つ拾うことによって「自分はゴミなんて捨てないぞ!」と思いつくようになります。さらに、その周りで清掃活動を見ていた人にも「道端でゴミを捨てると迷惑がかかるな。」と自覚するきっかけにもなると考えます。

奈良県明日香村との連携事業である「飛鳥光の回廊」に毎年参加しています。石舞台古墳をはじめ岡寺など、明日香村の代表的な史跡、寺院をライトアップする活動です。参加学生は、キヤンドルのデザインを自ら考え、事前に準備したカラフルなキヤンドルを並べ、点灯します。活動自体は、地域の住民の方々と交流しながら行うこととなります。来場者からは、工夫されたキヤンドルデザインに「非常にきれいですね。」と感想をいただいています。

また、昨年度は、サッカー部有志から令和元年台風19号被災者支援のために「何か力になりたい。」との申し出を受け、彼らと、ボランティア学生スタッフ、有志の関大生とで「義援金募集活動」を行いました。

これら以外にも淀川河川敷の清掃、吹田市との連携事業である「吹田クワイ収穫ボランティア」、「大阪マラソン給水ボランティア」、500名規模で実施する「大和川大掃除」などがあります。

関西大学ボランティアセンターでは、ご子女のみなさんに、各種ボランティア活動を通じて新しい自分の「気づき」を発見してもらえれば、学生生活はさらに充実したものになると考えています。

新型コロナウイルス感染症が収束した後には、安心と安全を最優先にボランティア活動を再開いたしますので、ご父母、保護者のみなさまのご理解とご支援を、今後ともよろしくお願いいたします。

飛鳥光の回廊

奈良県明日香村との連携事業である「飛鳥光の回廊」に毎年参加しています。石舞台古墳をはじめ岡寺など、明日香村の代表的な史跡、寺院をライトアップする活動です。参加学生は、キヤンドルのデザインを自ら考え、事前に準備したカラフルなキヤンドルを並べ、点灯します。活動自体は、地域の住民の方々と交流しながら行うこととなります。来場者からは、工夫されたキヤンドルデザインに「非常にきれいですね。」と感想をいただいています。

また、昨年度は、サッカー部有志から令和元年台風19号被災者支援のために「何か力になりたい。」との申し出を受け、彼らと、ボランティア学生スタッフ、有志の関大生とで「義援金募集活動」を行いました。

これら以外にも淀川河川敷の清掃、吹田市との連携事業である「吹田クワイ収穫ボランティア」、「大阪マラソン給水ボランティア」、500名規模で実施する「大和川大掃除」などがあります。

関大クリーン大作戦
大学周辺の清掃活動

千里山キャンパス等大学周辺を清掃するボランティア活動です。大学周辺で行うために多くの学生にとつて参加しやすい活動となっています。参加学生からは、「普段、足元を意識して歩かないけど、実は街にはゴミや吸い殻が落ちていたんだ。」などの感想を持ち、ゴミを一つ一つ拾うことによって「自分はゴミなんて捨てないぞ!」と思いつくようになります。さらに、その周りで清掃活動を見ていた人にも「道端でゴミを捨てると迷惑がかかるな。」と自覚するきっかけにもなると考えます。



淀川河川敷の清掃



義援金募集活動



飛鳥光の回廊



大和川大掃除

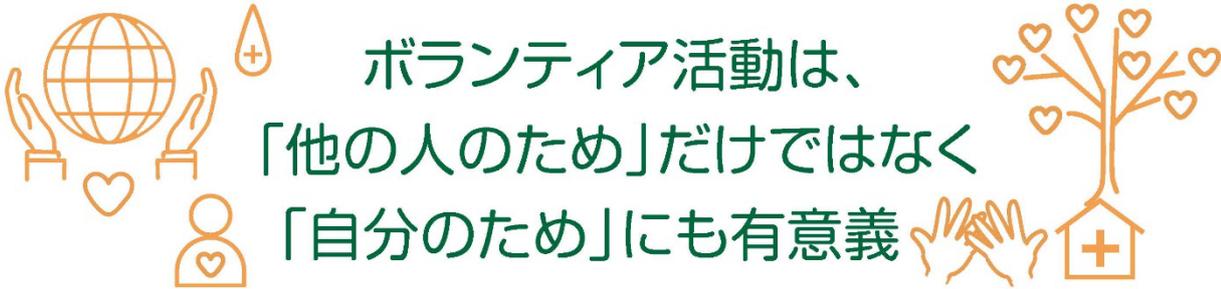


大阪マラソン給水ボランティア



吹田クワイ収穫ボランティア





ボランティア活動は、 「他の人のため」だけではなく 「自分のため」にも有意義

ボランティア活動に参加することは、「他の人のため」だけではなく、「自分のため」にも有意義であると言うことをお話しします。



ボランティア活動
支援グループ長
宇田川 真治

ボランティアとは

ボランティアと聞くと、多くの方は「困っている人」のために無償で、時には一方の奉仕活動をイメージするのではないだろうか。厚生労働省ではボランティア活動を「自発的な意志に基づき他人や社会に貢献する行為」と説明し、その活動には、

- ①自主性 ②社会性 ③無償性などを伴うものと示されています。もう少し詳しく言いますと、
- ①自主性とは、自分自身の考えに基づく行為であり、他から強制されるものでないと言えます。
- ②社会性とは、他人や社会のために行う活動であり、自身の利益を中心に考えるのではなく、社会や地域を良くするために行うものと言えます。
- ③無償性とは、自分自身の考えで参加するボランティア活動では、必要以上の報酬や対価を期待するものではないと言えます。

でも、ボランティア活動に参加するために意識していることは本当にこれだけででしょうか。

ボランティアに参加する理由

「困っている人のために何か自分ができることをしたい。」と思うことはボランティア活動の最初の一歩と考えられます。では、関大生を対象とした「学生生活実態調査報告書」の項目「ボランティア活動に参加した理由」から見ると、上位から「社会勉強（34.9%）」、「友人に誘われて（25.9%）」、「参加している団体の活動として（24.3%）」、「大学生活を充実させるため（22.7%）」、「自分を試したかった。（19.1%）」と続きます。「困った人を助けたい（14.0%）」との回答もありますが、それほど多くはありません。関大生にとっては、ボランティア活動を「自分のため」にするものと捉え、これに他の動機や目的を併せ持つて活動に参加しているとの結果がでています。これらは、なにも関大生に限った特徴ではなく、公益財団法人日本財団 学生ボランティアセンター（Center for Student Volunteer Activities）が実施した、全国学生1万人を対象にした「ボランティアに関する意識調査2017」でも、ボランティアをはじめ最大のきっかけとして、4人に1人もの学生が、「自己実現・自分自身のため」（27.5%）と答えています。ボランティア活動を自分の

経験や学びのための足掛かりとして活動していることが見受けられます。ボランティア活動は、他人のためにするものと考えられる方も多いと思いますが、それ以上に自分のためにもなるのです。ボランティア活動を通して自分の成長が実感できる。これがボランティアを継続可能にする力であると言えます。

— コラム 1 —

ボランティアに参加したことのある関大生の割合

(2019年度 学生生活実態調査より)

26.8%

関大生の4人に1人はボランティア活動に参加したことがあります。近年はメディアでも取り上げられているように、ボランティア活動は、身近な活動の一つになっています。

実際に活動している学生スタッフに聞いてみると

学生スタッフに聞いてみると「ボランティアを頑張っているねえ」、「人のために頑張っているねえ」と言われることがあるとのこと。話を聞いていくと、学生スタッフは、「ボランティアを必要とされる方のため」に活動したい」という気持ちを持ちながら、「自分が研究しているテーマについて学びたい」、「自分が今まで



子どもから大人へ、
命を守る知恵を伝えたい。

新聞紙とゴミ袋が、少しの工夫で、スリッパとポンチョに変身！ 幼稚園で防

災グッズの作り方を教えていたのは、関西大学の学生団体「KUMC※」の皆さんです。この団体は、東日本震災の発生後、被災地支援を行った学生が中心となって設立されました。

今回、話を伺ったのは、いまや200人を超えるこの団体の代表を務める、三浦千尋さんです。彼女には、防災に對しての確固たる想いがありました。

高校生の時、和太鼓部に所属していた三浦さん。東日本大震災の被災地を訪れてコンサートを開催したことが、大きな転機になったと話します。

「今でも、仮設住宅に住む方の声が残っています。現地で見ただけで、聞いたことは、誰かが伝えていかなければ、

役に立たない。それが、私の使命だと感じました」。

KUMCが防災授業を行うのは、主に小学生などの子どもたちです。「まずは子どもたちに防災の大切さを伝えることから。そして、保護者の方の意識も変えていければ。いざという時は、自衛隊や消防隊が来るのを待つより、近所で助け合う方が早いので、知識がある人が少しでもいれば、助けられる命が増えるはずです」。

大阪府北部地震の時、三浦さんは、授業で習った断水への対処法を、周りの友人にもすぐに共有したそうです。地震の体験や知識を、自分だけでなく多くの人に伝えなければ。そう、強い使命感を持つ三浦さんの姿に、社会の一員としての自覚を感じました。

Interview

関西大学学生団体
KUMC

代表 三浦千尋さん

※KUMC--Kansai University Muse for Citizen

高槻で活動するKUMC

■ 市内のイベント

市内の大きなイベントで、ブース出店を行っています。イベントを訪れる際は、探してみてください。



■ 高槻ミュージズ キャンパス祭

関西大学の学園祭で、防災にまつわるプログラムも集まる、一大イベント。この日は、多くの市民がキャンパスに集います。KUMCは例年、親子向けのブースを出店中。※今年は中止が決定しています。



■ 防災の出前授業

小学校や幼稚園で、大雨、地震、津波、交通事故についての授業を行っています。子どもたちには、手作り防災グッズのレクチャーや、防災について楽しく学べる絵本や紙芝居も人気。



幼稚園の保護者に向けての防災授業の様子。スライドを使って、ハザードマップの確認や、緊急時の対応について学びます。



1

手作り防災グッズ
-新聞紙で作るスリッパ-



新聞紙を使ってスリッパを手作り。子どもたちは、仕上げのお絵かきに夢中です。楽しんで学んだことが、いざという時に役立つことでしょう。

2

手作り防災グッズ
-ゴミ袋で作るポンチョ-



ゴミ袋に切れ込みを入れて、最後に開くと、立派なポンチョに変身するので驚き! 雨風をしのげるだけでなく、保温性もある優れものです。

今日の私が、
誰かの未来を守る
防災への取り組み方は、一つだけではありません。
自分らしい方法で、行動を続ける人たちが取材しました。

≫ 作り方は、市ホームページ、Instagram高槻市公式アカウントをチェック!

令和2年2月17日に取材

学生団体KUMC



<https://twitter.com/museforcitizen>
<https://ameblo.jp/kumc-kansai-u/>

2011年4月、高槻市に関西大学の新学部が開設されました。安全・安心な社会づくりを学ぶ日本で初めての学部・社会安全学部です。折しも一月前の3月に東日本大震災が起きたその時機、安全・安心を学ぶ学生が始めた活動は9年目を迎えています。

自らの学びを地域に発信

社会安全学部第一期生30名で始めた活動は、現在200名を超える大きなサークルに成長しました。活動の理念は自らの学び(社会安全学)を地域に発信すること。関西大学高槻ミューズキャンパスを拠点に、高槻市を中心に年間60を超える対外活動をしています。

活動の中で多数を占めているのは、地域の小学校への防災出前授業と、地域貢献活動のため地域イベントやお祭りの企画・運営への参加です。

防災出前授業は、学生自らアポイントを取り市内では清水、川西、大冠小学校等、遠くは羽曳野市まで出かけます。授業では、学年に合わせて資料を用意して対応しています。高槻は2018年に大阪府北部地震を経験したこともあり、防災教育への関心は高いのでしょう。奥坂小学校に限れば、昨年度で全ての学年を網羅しました。こうした出前授業での経験も買われ、放課後子ども教室からも声がかかるようになりました。今年に入ってから西大冠幼稚園PTA向けに出前授業を行いました。代表の三浦さんによれば、地域に発信する機会が増えることで、一般的な防災論にとどまらない、その場所、その世代に想定される危険を踏まえた防災授業が必要との認識を、サークルとして新たに得ることになったそうです。

地域のイベントやお祭りについていえば、「高槻ジャズフェスティバル」「高槻まつり」はもちろん、参加するイベントは年に60近くにもなります。防災ブースでの参加もあれば、純粋に運営ボランティアでの参加もあり。とりわけ若い彼らの活動は地域でも目を引く存在となり、イベントをきっかけに防災出前授業を依頼されたこ

ともあるそうです。4月にはサポートセンター経由で、子どもの健全育成に関わる登録団体とのマッチング(今秋開催イベントへの参加打診)がありました。

東北とのつながり

「とにかくボランティアを」とサークル発足に東日本大震災が与えた影響は大きく、東北に向けた支援は活動の柱の一つです。震災の前から個人的に観光地として東北に親しんでいた三浦さん、震災の記憶を受け継ぎつつ、名所を巡り復興支援をしたいと東北訪問の主催側へ。松島を周遊しながら語りべの話を聞く旅程を組んでいました(新型コロナにより中止)。また、多くの津波犠牲者を出した大川小学校(宮城県石巻市)で助かった生徒は、三浦さんと同じ年。つてを巡り、東北訪問時には会見することになっていました。高校時代から被災地訪問を続けてきた彼女が新しく企画した春の訪問には、60名が参加を希望していました。

これから

現在サークル活動は大学側より中止を要請されています。コロナ禍後のサークルについては、「起きる災害は仕方のないこととして、いかに減災につなげるか。コロナ(感染症)対策も防災対策の一つとして対応していくことができるのではないか。」と語ってくださいました。柔軟な彼らが、これからの学びをどのように地域に生かしてくれるのか、今後のKUMCに大きく期待したいですね。

お話は、非常事態宣言の出る前の3月30日、協働ブラザで伺いました。



社会安全学部 3年次生

三浦 千尋さん

**被災地で聞いた教訓をどれだけ伝えられるか。
地域防災につなげることが使命**

三浦千尋さんが代表を務めるKUMC(Kansai University Muse for Citizen)は、「高槻市を中心とした地域住民に「防災・減災」の知識を発信する」という理念のもと、防災の啓発活動を行う団体です。「防災教育班」「ハザード対策班」「イベント班」の3班に分かれて、防災意識の向上を目指す活動や高槻市でのイベント運営の補助などを行っています。

高校生の時に、和太鼓部に所属していた三浦さん。3年生の全国大会で宮城県を訪れ、東日本大震災について地域住民の方から話を聞いたそうです。その時に「同じことを繰り返したくない。自分に知識がなければ誰かを守れない」と思い、災害が起きるしくみや防災について学べる社会安全学部に入学しました。KUMCの活動で、「子どもたちからの質問に、大学で学んだ知識を生かして答えられたときは、学習とボランティア活動の相乗効果を実感しました」と三浦さん。

代表の最も大切な仕事は、200人以上の部員をまとめること。そのため三浦さんは、常に全体の状況を把握し、サポートが必要な班を見極めフォローしているのだとか。一番の思い出は2年次の東北ツアー。企画を担当し、座学のみならず町歩きやVRを使用した防災の勉強、現地の高校生との交流に加えて、名所を調べて観光にも行きました。「東北にはいいところがたくさんあります。それを知っていたらまた行きたい!と思いますし、その輪を広げたい」と話します。

「被災地で聞いた教訓を、私たちが地域の方々にとどれだけ伝えられるか。活動を通してより多くの人に楽しく、正しく理解してもらおう方法を考え、伝えていくことが使命です」と力強く語ります。「将来は被災地の魅力を紹介する仕事をしながら、ボランティア活動も続けたいです」と締めくくりました。

「被災地で聞いた教訓を、私たちが地域の方々にとどれだけ伝えられるか。活動を通してより多くの人に楽しく、正しく理解してもらおう方法を考え、伝えていくことが使命です」と力強く語ります。「将来は被災地の魅力を紹介する仕事をしながら、ボランティア活動も続けたいです」と締めくくりました。



2019年夏の東北ツアーで宮城県を訪問

今回は、三浦さんからのご紹介で浅井亜美さん(政策創造学部3年次生)が登場。お楽しみに!



Chihiro Miura

2020年度 活動報告書 (第15号)

発行日 2021年 9月 30日
発行所 関西大学ボランティアセンター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-3
TEL 06-6368-1121 FAX 06-6368-0703
www.kansai-u.sc.jp/volunteer

印刷所 大都印刷株式会社
〒550-0014 大阪市西区北堀江3丁目6-3



関西大学ボランティアセンター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35

TEL.06-6368-1121

FAX.06-6330-3703

www.kansai-u.ac.jp/volunteer/